若年層の観光活動の減少要因に関する分析

Analysis of Decreasing Tourism Activities in Young Segment

平成22年7月28日

運輸政策研究所
研究員
奥山忠裕

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

本日の流れ

1．研究の背景と目的

2．時系列データからみた観光活動の減少要因

3．生活様式･価値観と観光活動

4．本日のまとめ

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

1．研究の背景と目的

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

研究の背景

平成21年国民の観光旅行の動向と課題に関する分析

いままでの（持続的）観光のモデル
観光した経験が次の観光活動につながる

例）　親が子供を観光に連れていくことは重要
　　若いうちの観光経験は次の観光活動につながる

最も観光活動を行う時期での活動の低下

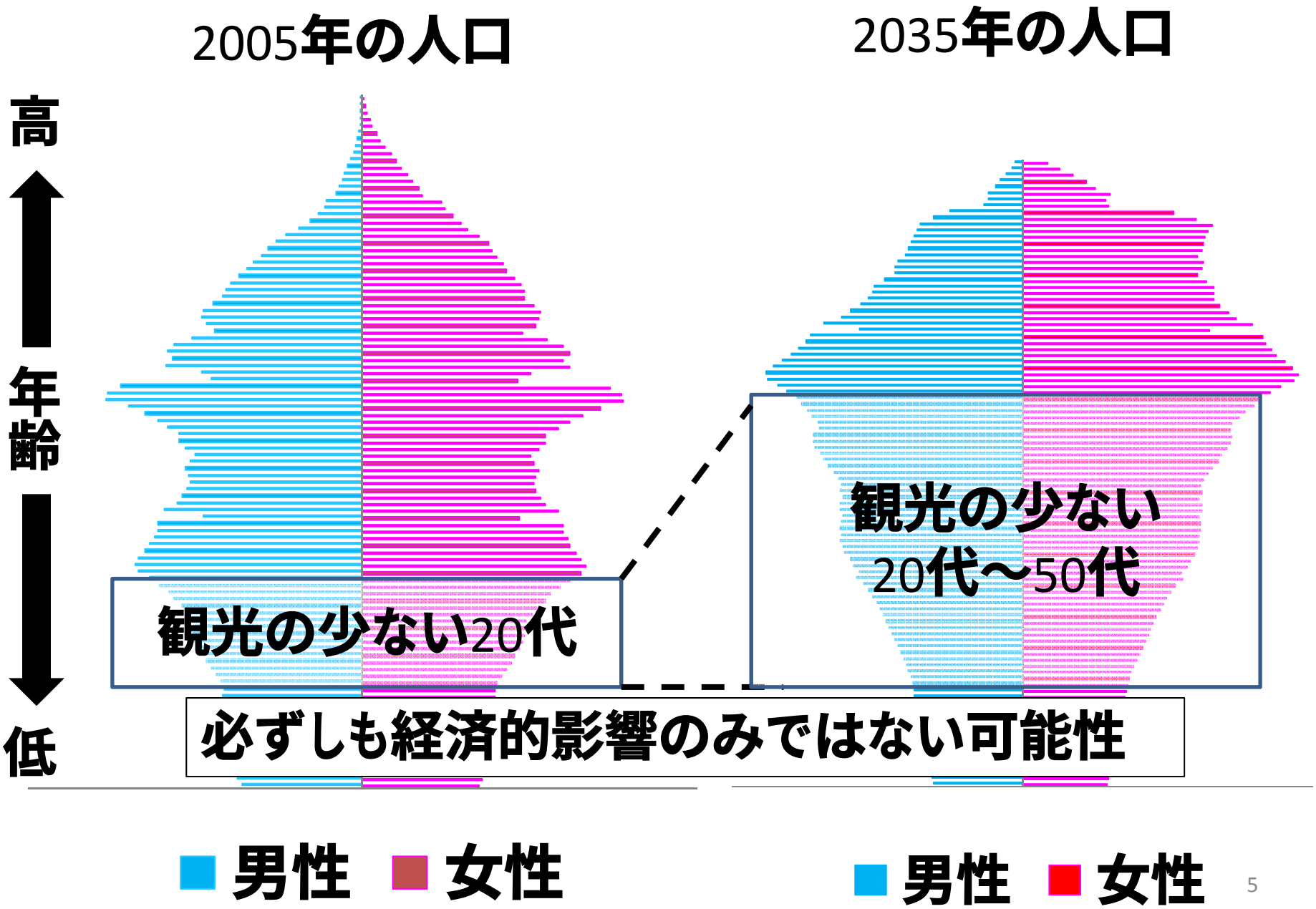
若年層・大学生の観光活動の低下

観光をしない経験が次の観光活動をしない状況につながる

従来の観光モデルが成立しなくなる可能性

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

若年層の観光減少の影響とは？



(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

研究の目的

若年層を対象とした

□　観光活動を減少させる要因の特定化

□　生活様式･価値観と観光活動の関連性

＊若年層：１０歳代～２０歳代
＊観光　：国内宿泊観光＋国外観光（海外旅行）

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

2．時系列データからみた観光活動の減少要因

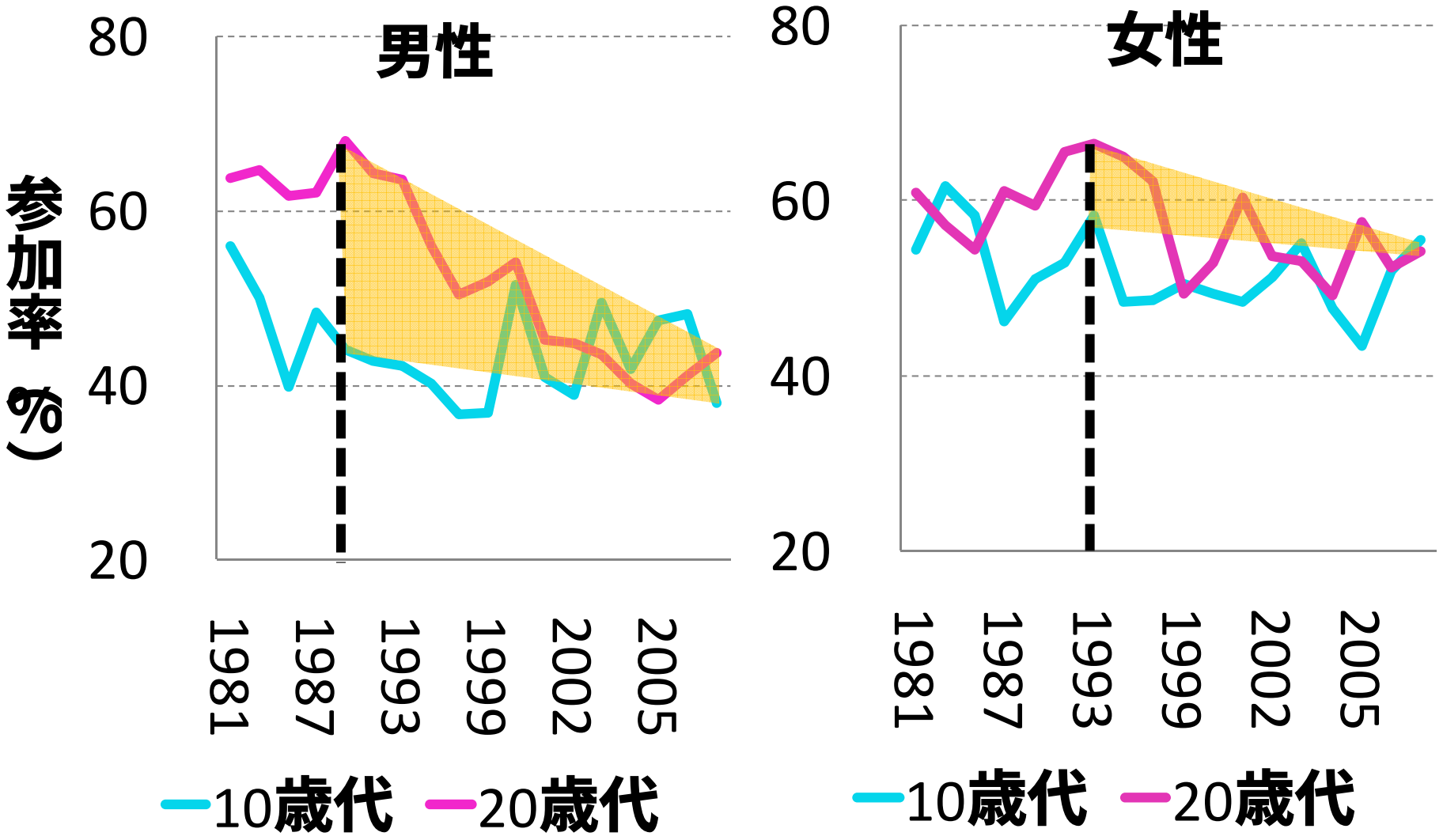
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

若年層の観光の動向

【年次】
1999年まで隔年。以降2008年まで
＊1981年 (S57) 以降のデータを利用
【性別】
男女
【年齢】
15~19歳 ⇒ 10歳代
20~29歳 ⇒ 20歳代
【観光の動向】
回数、参加率*

＊宿泊観光を行ったと回答したものの割合
【観光を行わない理由】

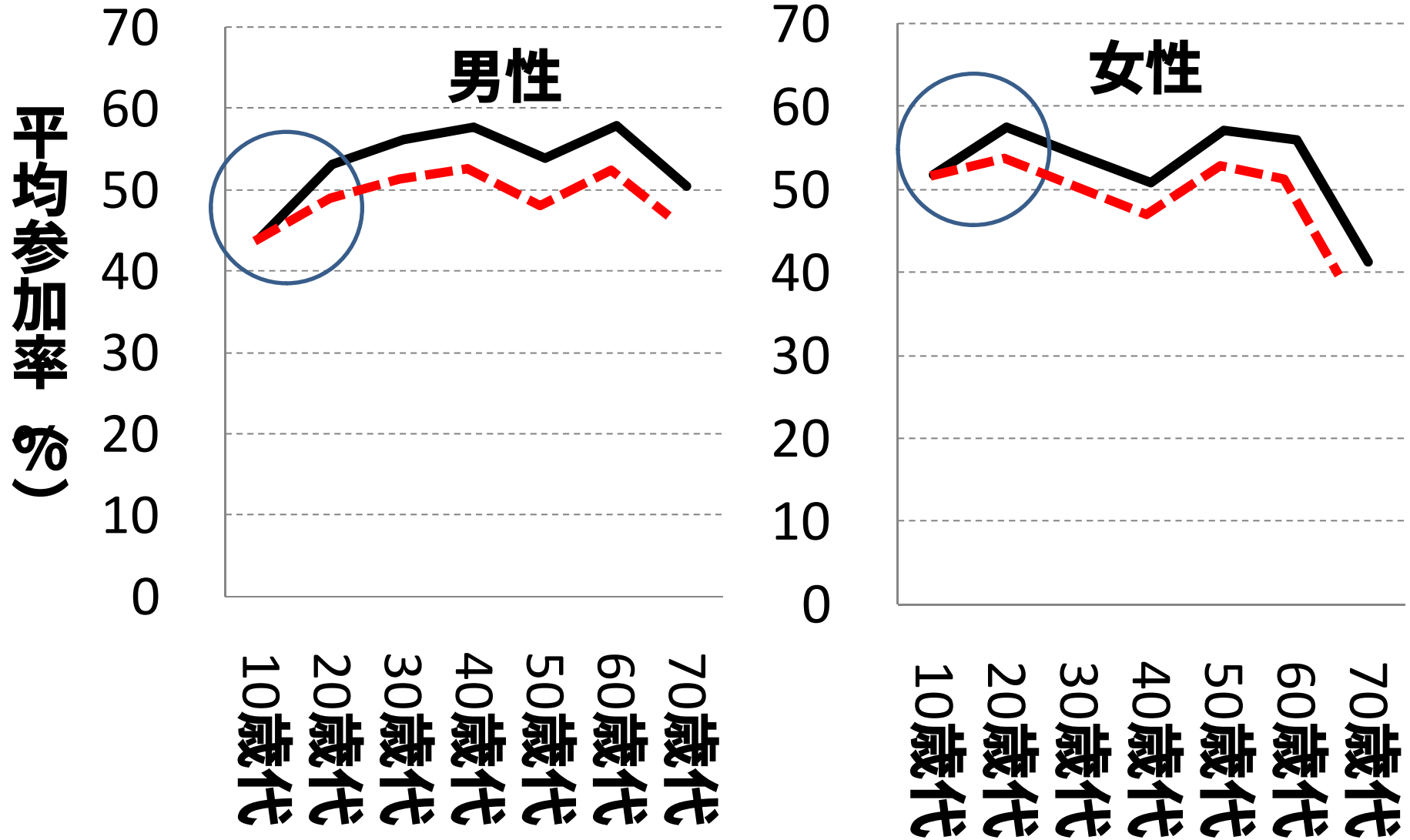
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010



□20歳代の観光参加率の減少
□10歳代との差の縮小

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

年齢別観光参加率



□10歳代⇒20歳代の伸び率が最も高い

□全年代で減少する可能性

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

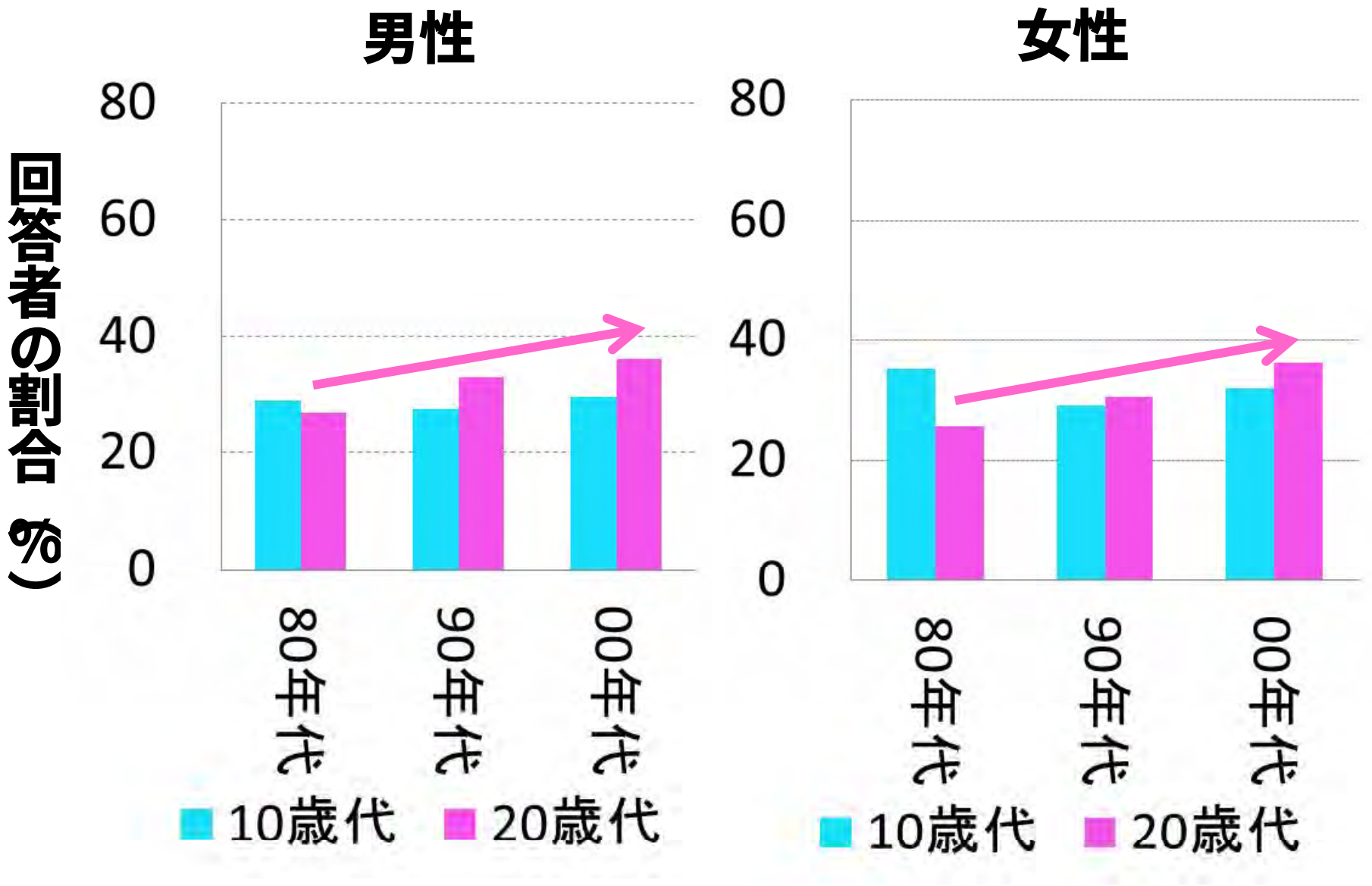
観光をしない要因：時系列データ

観光の実態と志向
「この１年間に泊まりがけの国内観光旅行をしなかったのはどのような理由からですか」

【経済】経済的余裕がないから
【時間】時間的余裕がないから
【理由無】なんとなく旅行しないまま過ぎた
【出張】出張・帰省・訪問等で観光したから
【家】家を離れられない事情があったから
【健康】健康上の理由で
【計画】計画や準備が面倒だから
【場所無】行きたいと思うところがないから
【他のこと】他にやりたいことがあるから
【海外】国内旅行より海外旅行がしたいから
【嫌い】旅行は嫌いだから
【同行者】一緒に行く人がいないから

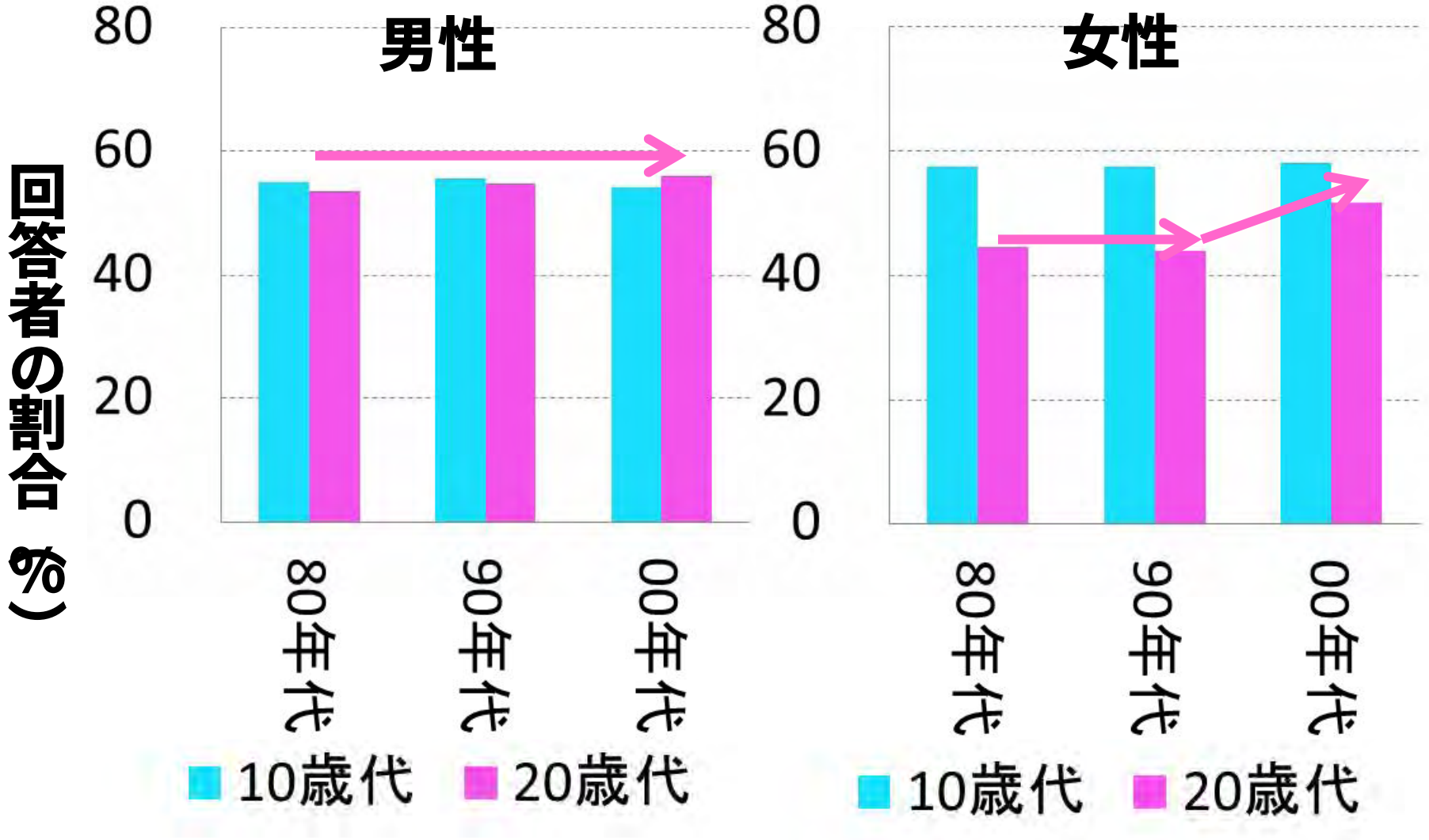
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

【経済】経済的余裕がないから



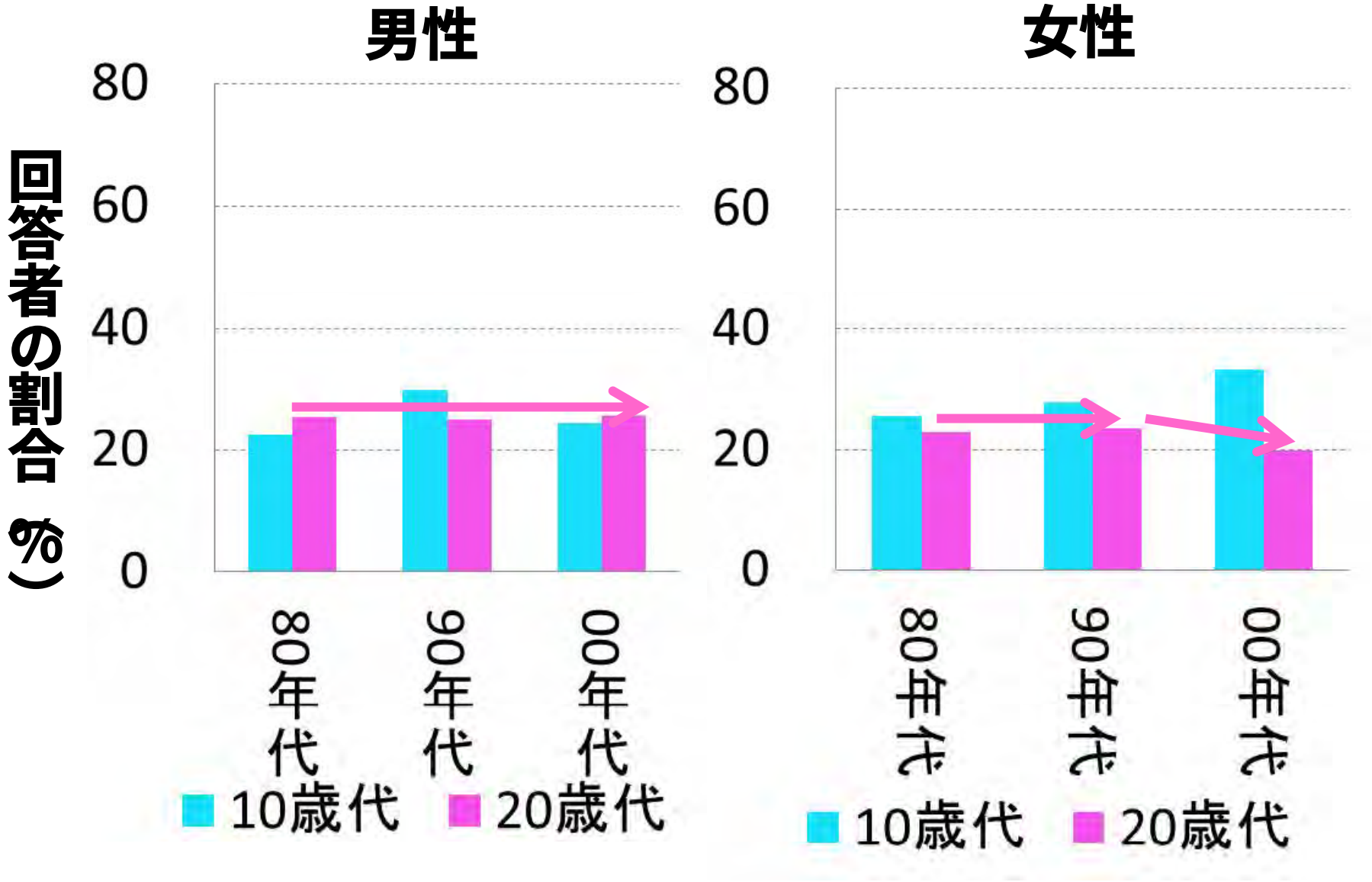
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

【時間】時間的余裕がないから



(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

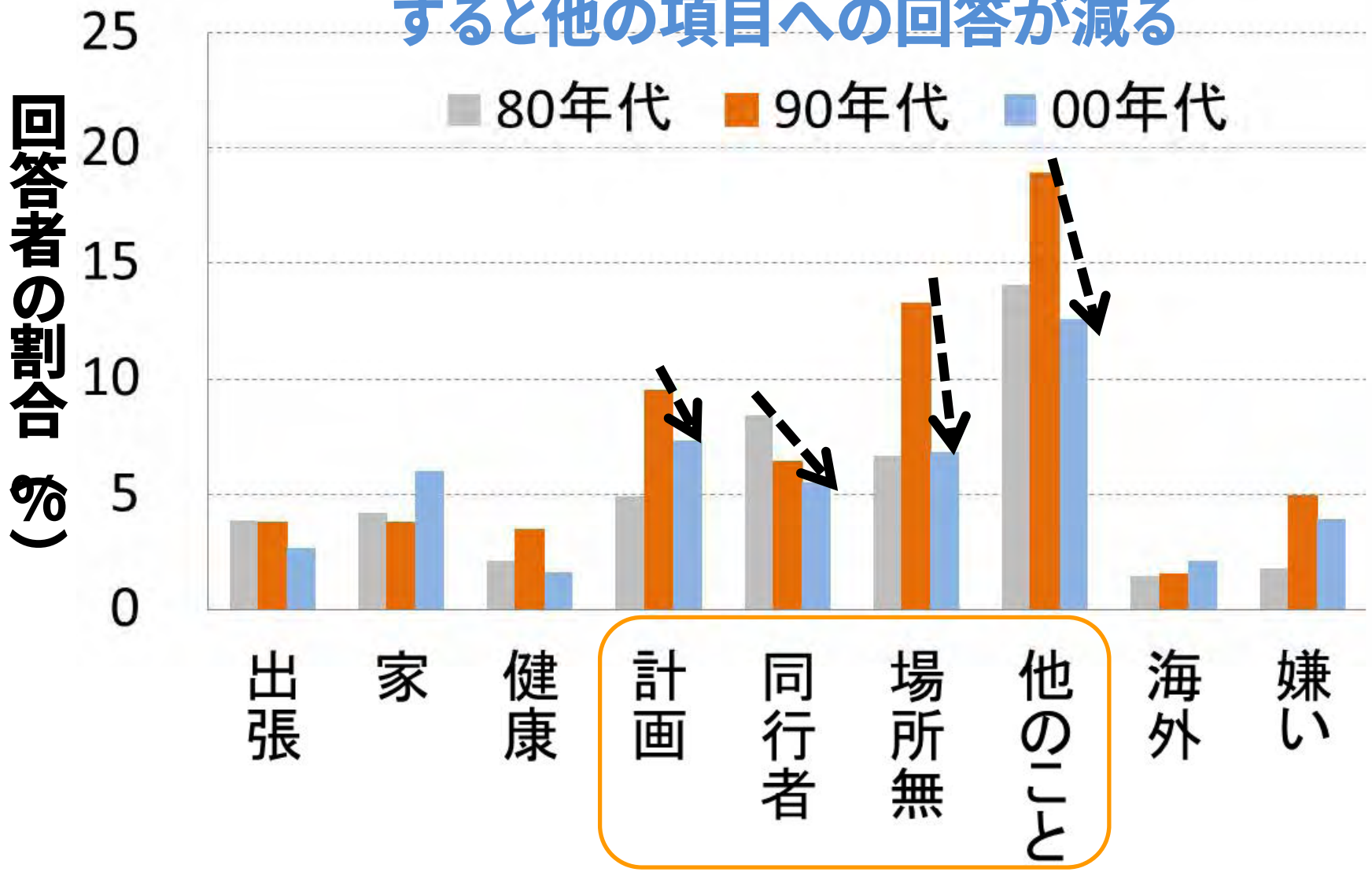
【理由無】なんとなく旅行しないまま過ぎた



(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

その他の項目：男性10歳代

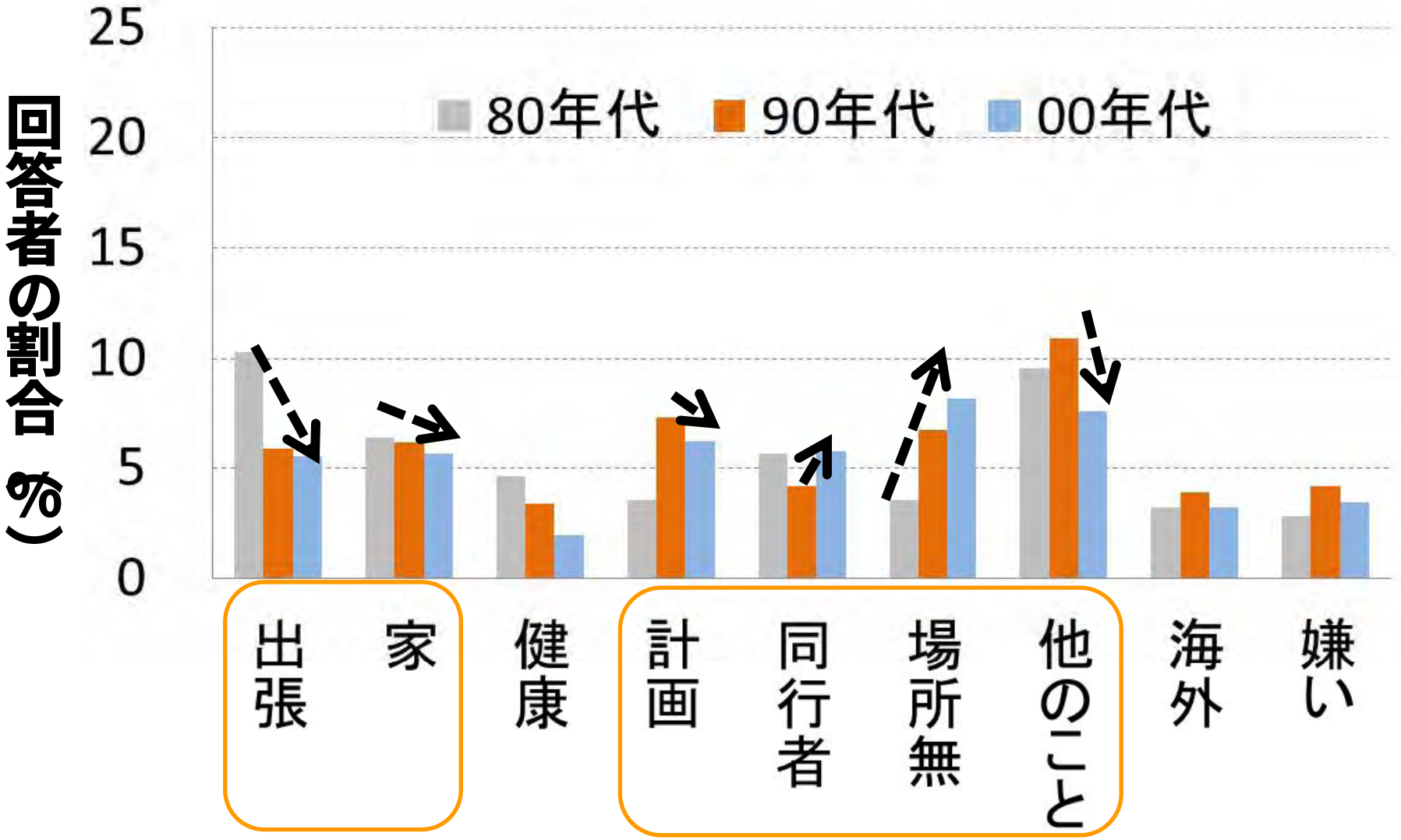
経済・時間的理由と同時に質問すると他の項目への回答が減る



＊平均5%以上を理由

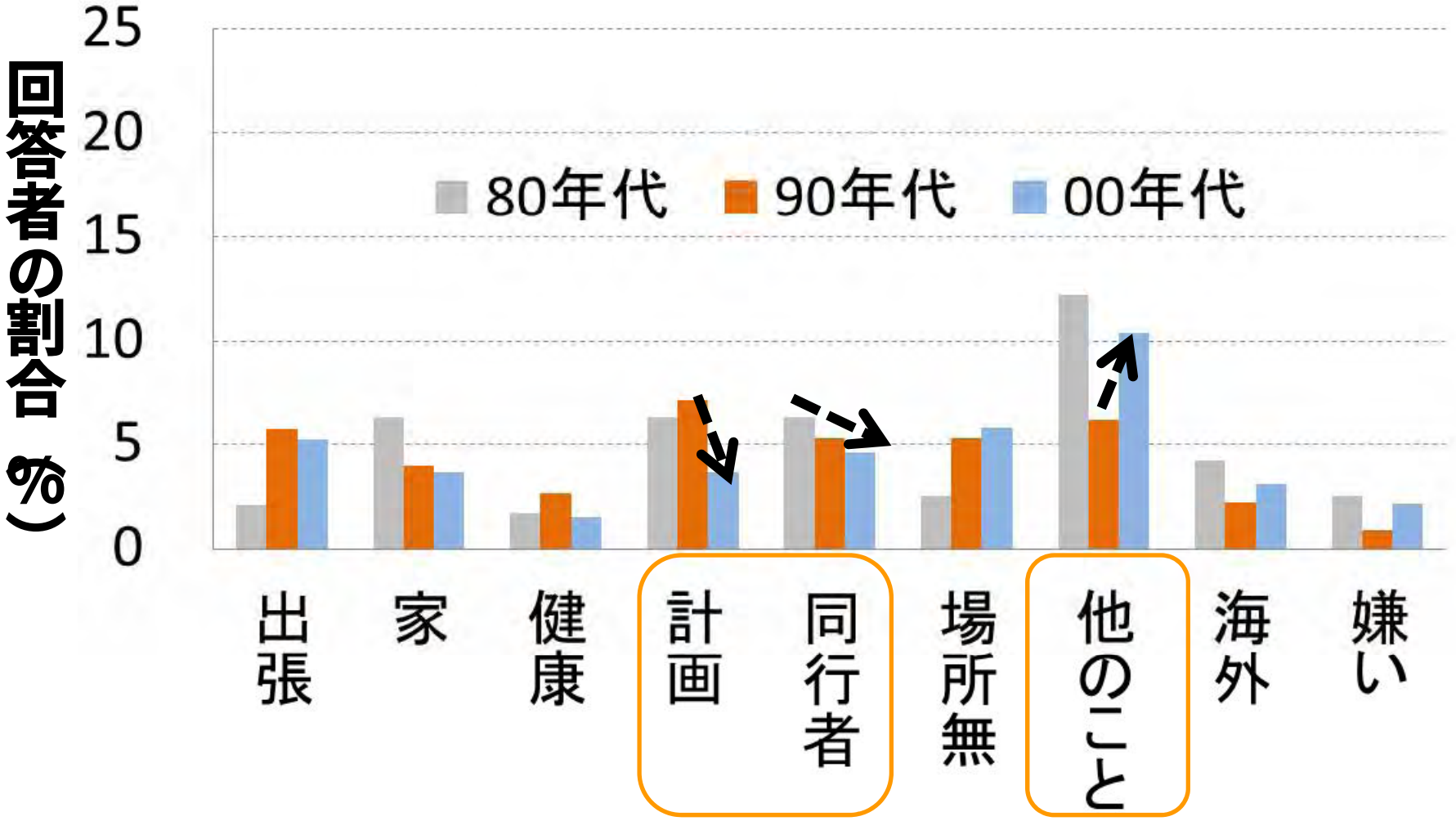
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

その他の項目：男性20歳代



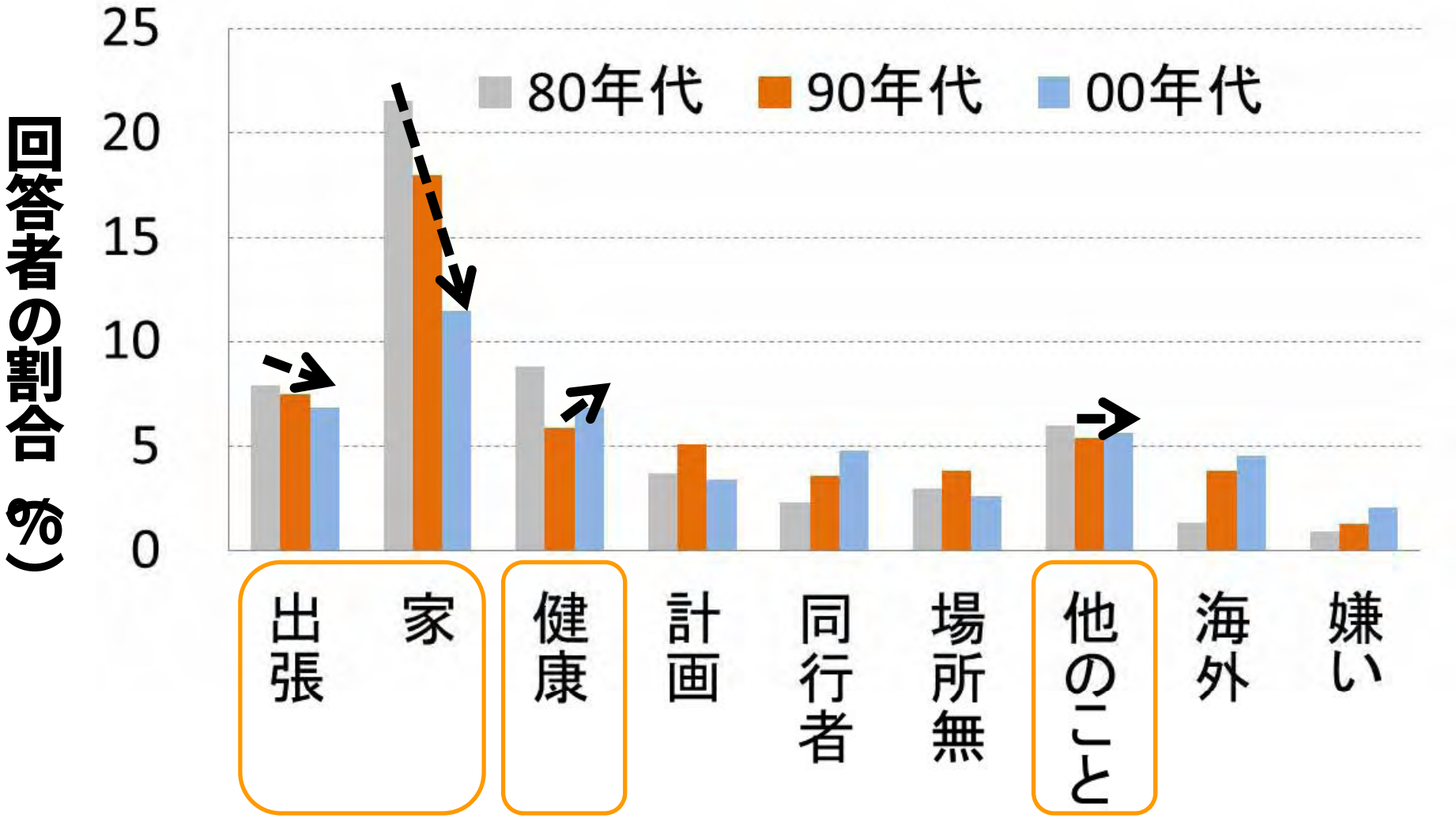
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

その他の項目：女性10歳代



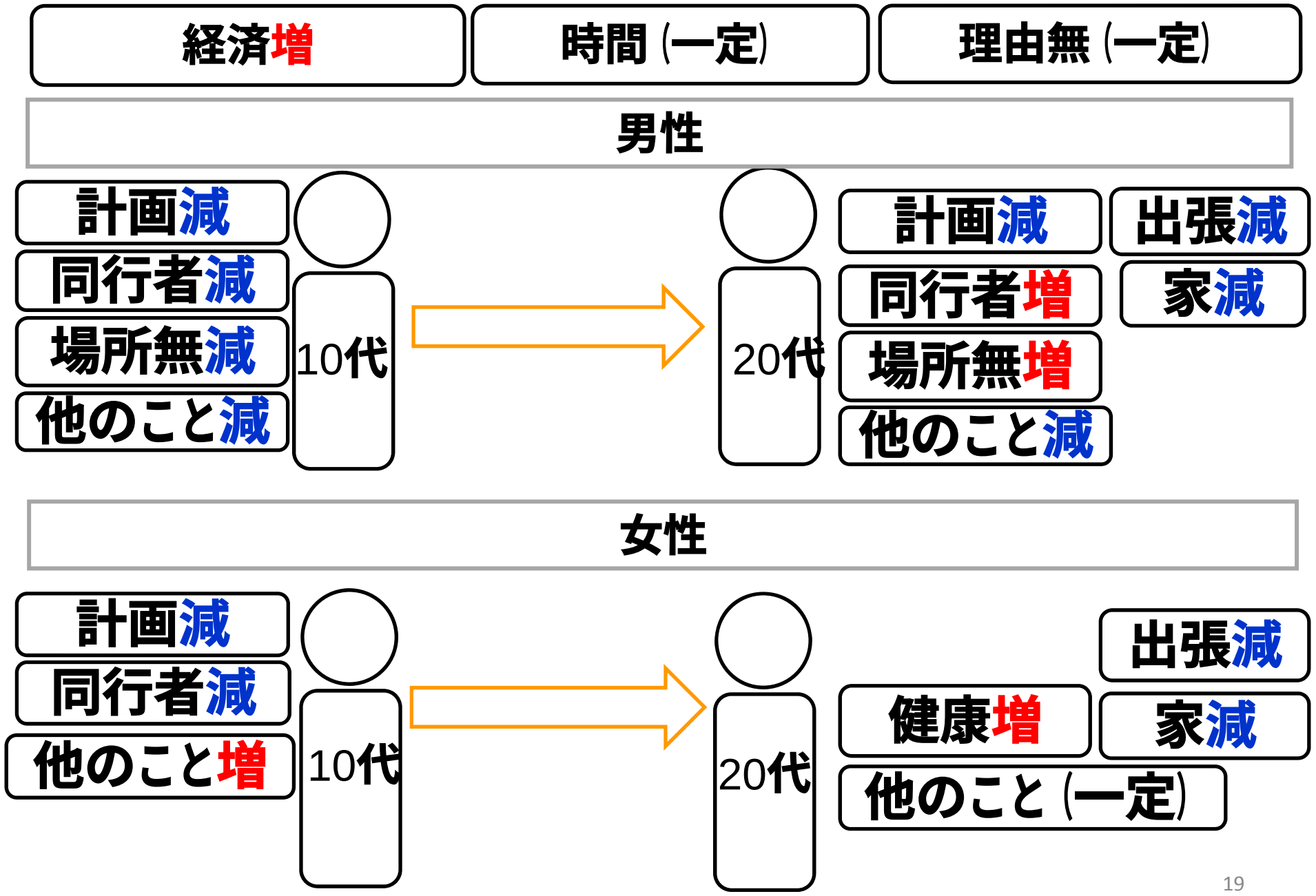
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

その他の項目：女性20歳代



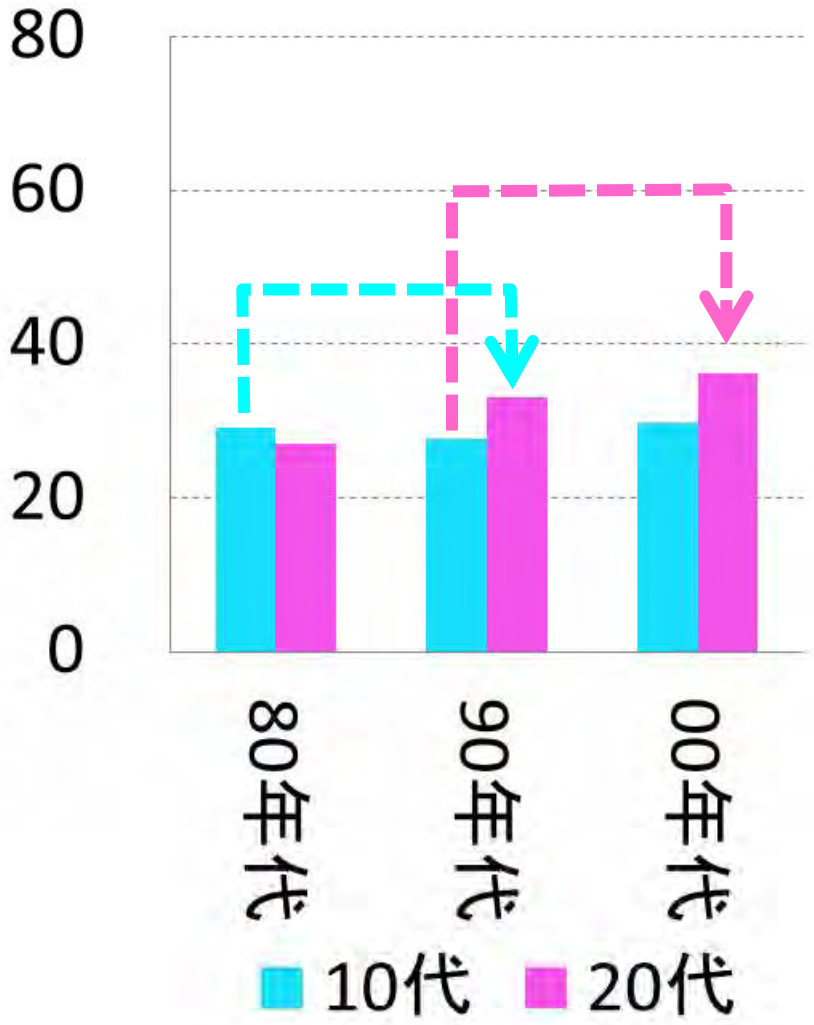
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

まとめ①



(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

世代ごとの正確なデータは少ない・・・



①80年代の10歳代は90年代の20歳代

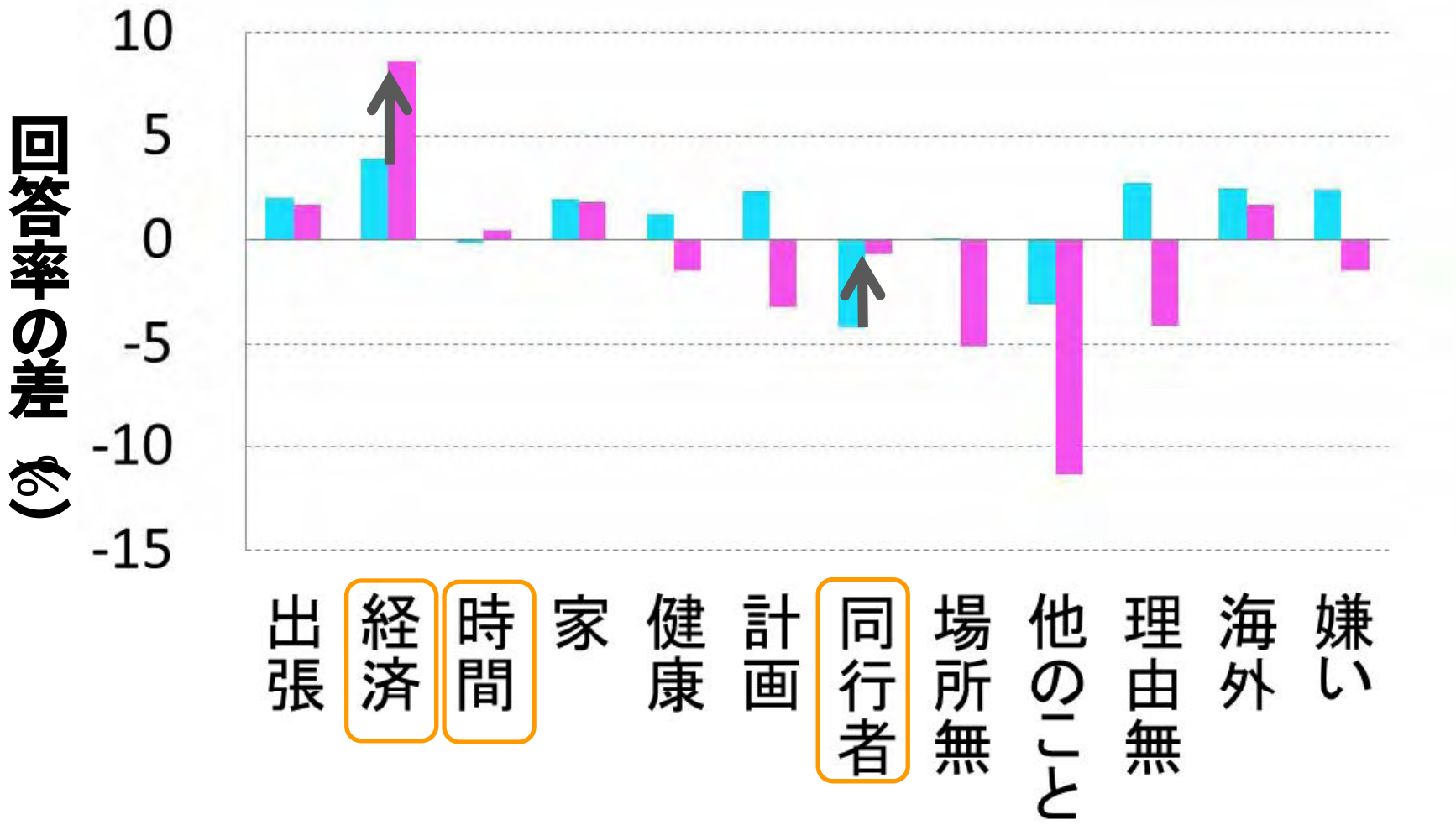
②90年代の10代は00年代の20代

⇒各年代の回答率の差を計算

＊89年の15歳が90年の20歳代として計算されている可能性

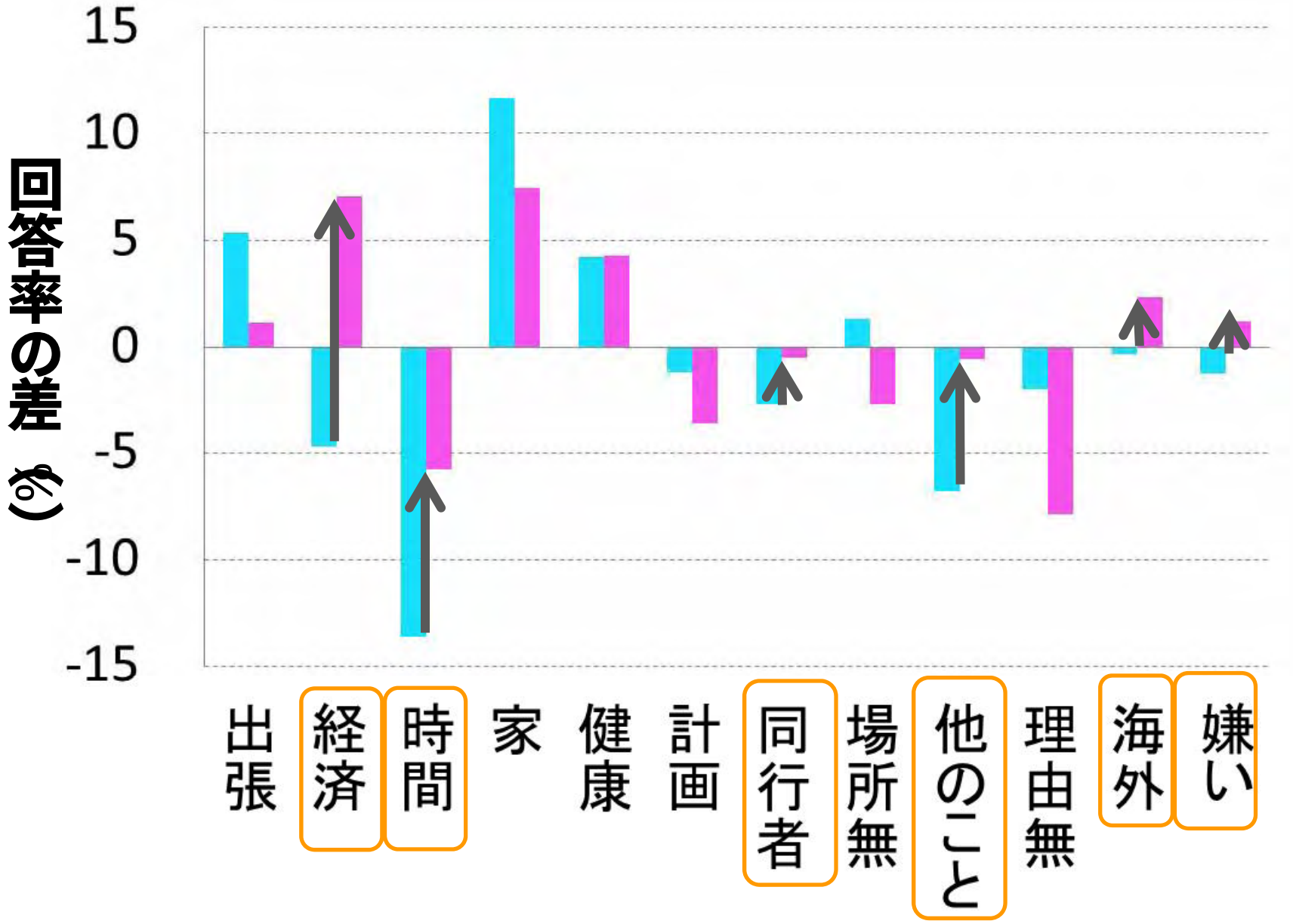
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

男性：10歳代⇒20歳代で伸びる理由



(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

女性：10歳代⇒20歳代で伸びる理由

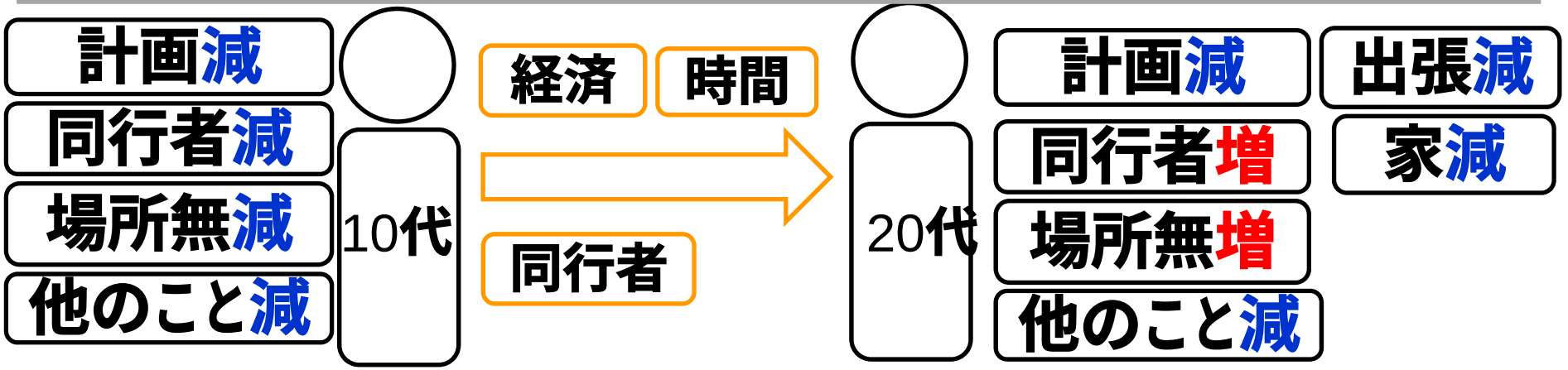


(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

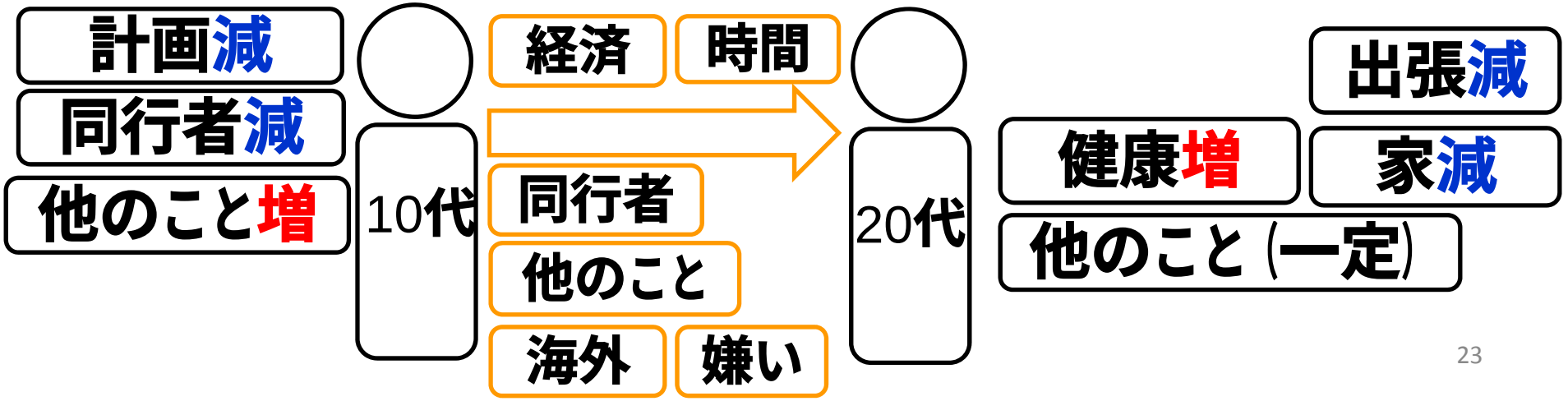
まとめ②

経済増 | 時間 (一定) | 理由無 (一定)

男性



女性



(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

観光をしない理由

経済増	時間（一定）

近年増えてきている理由
男性
20歳代増：同行者、場所無
10歳代⇒20歳代：同行者
女性
10歳代増：他のこと
20歳代増：健康
10歳代⇒20歳代：同行者、他のこと、海外、嫌い

経済的理由の背景は何か？
金銭的理由のみか？

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

3．生活様式･価値観と観光活動

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

「○○離れ」には何があるのか？特徴は？

テレビ離れ	観光離れ	献血離れ
クルマ離れ	理系離れ	わさび離れ
バイク離れ	プロ野球離れ	ガム離れ
読書離れ	スポーツ離れ	梅干し離れ
CD離れ	映画離れ	タバコ離れ
新聞離れ	ゲーセン離れ	酒離れ

⇒テレビ・クルマ・バイク・観光
：経済的な理由およびそれ以外の可能性

⇒「○○離れ」：経済的な理由以外の要因の可能性

食品・酒：嗜好

読書・CD・映画：娯楽形態の変化

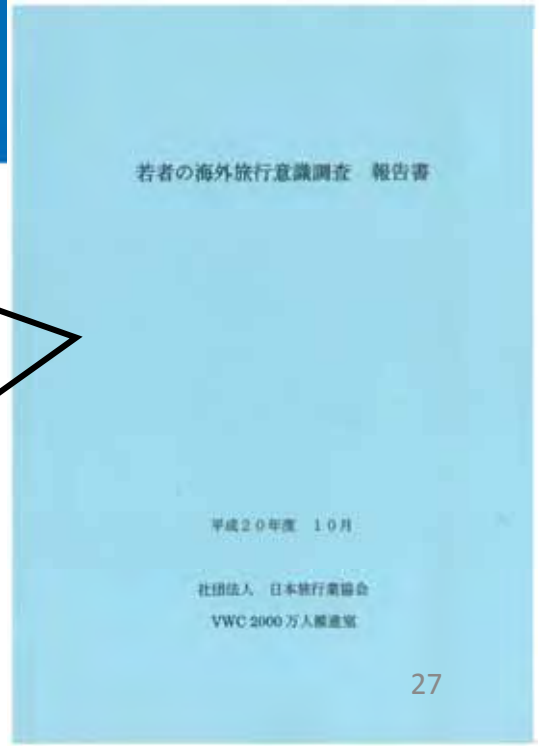
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

若年層の観光離れに関する調査･報告

2008年
日本人の旅行行動に関する実態調査

2005年~
旅行をしなかった理由の調査

1981年~
旅行をしなかった理由の調査

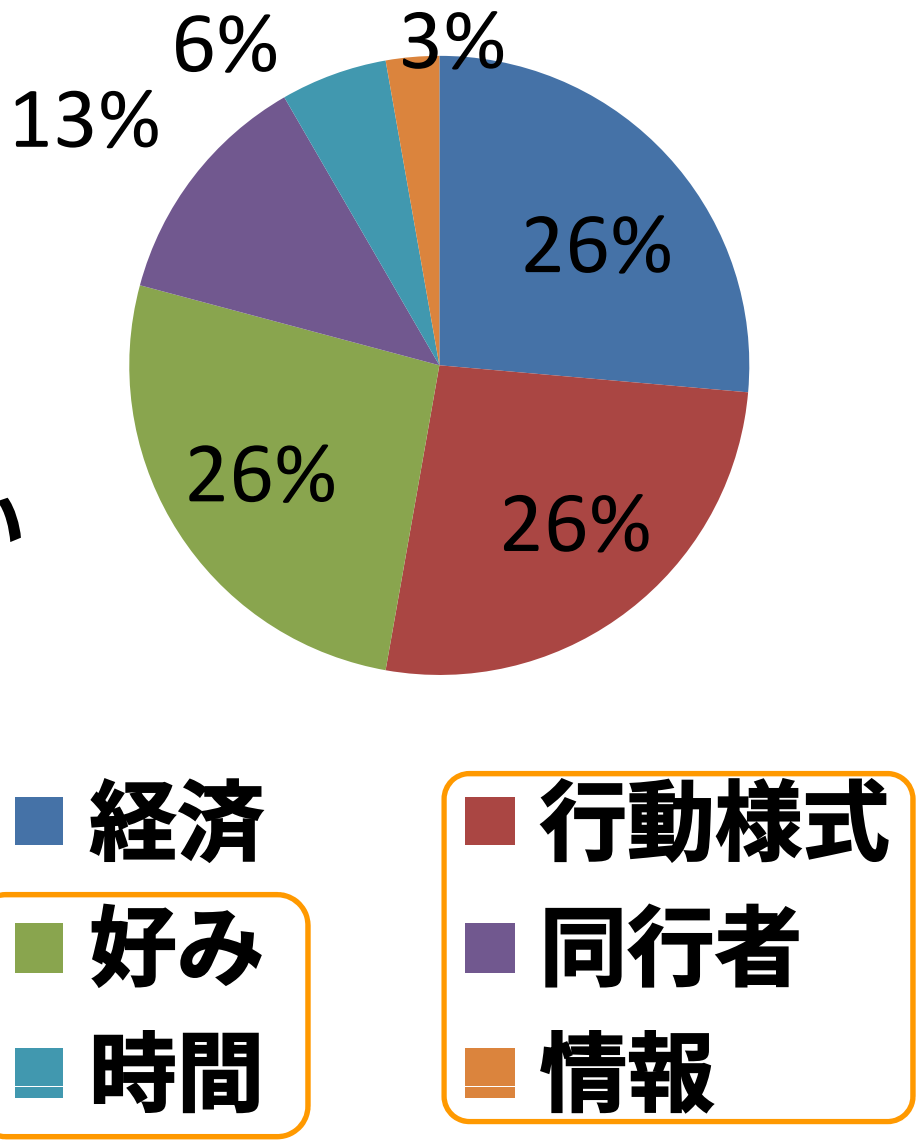


2008年
若者の海外旅行意識調査

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

観光の減少要因に関する調査７８項目中の割合

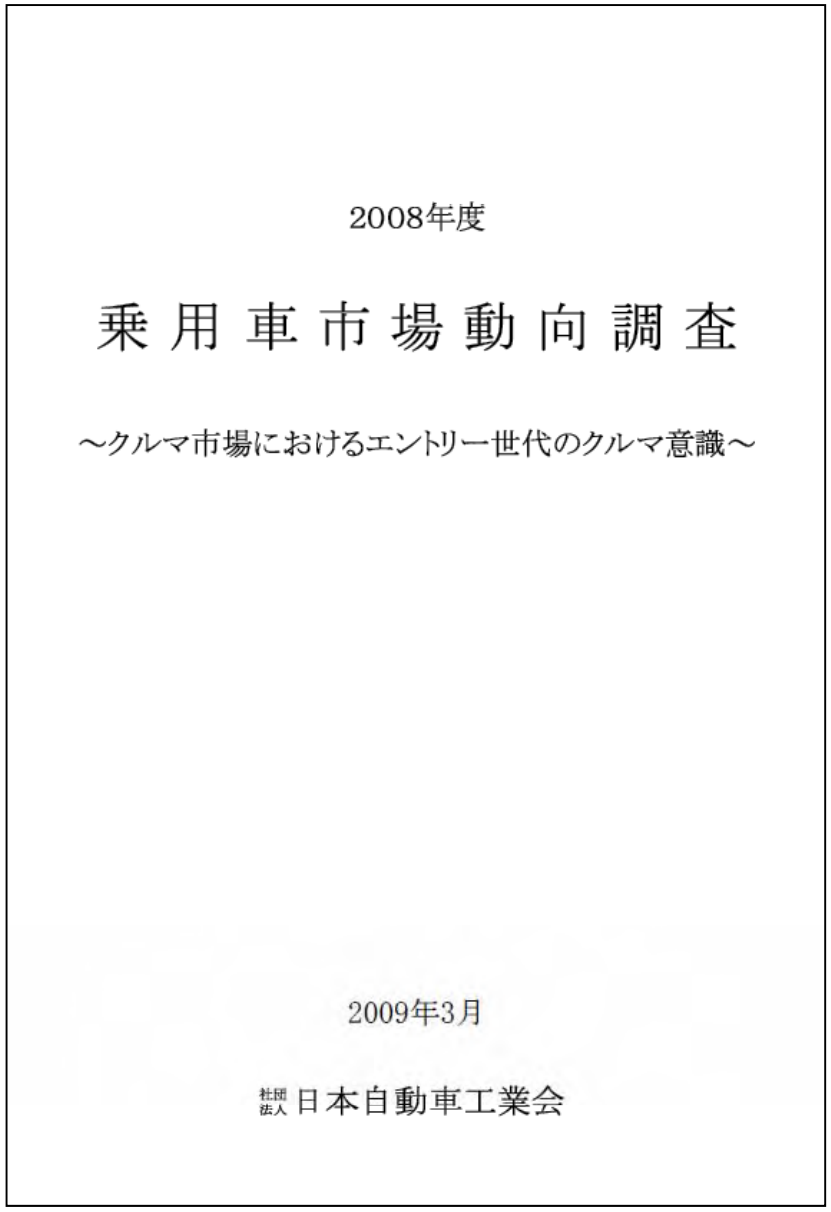
【経済】
お金に余裕が無い
値段が割高
【時間】
休暇が減って
【同行者】
配偶者と休日が重ならない
【情報】
TV・ITで十分
【好み】
行きたいところがない
【行動様式】
健康上の理由
空港までが遠い



経済以外の調査項目

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

若年層の成長環境･価値観


2008年度

乗用車市場動向調査

～クルマ市場におけるエントリー世代のクルマ意識～

2009年3月

社団法人 日本自動車工業会

時代環境

- □大学生（エントリー世代）
- □バブル崩壊後の低成長期
- □将来の社会･経済に対して悲観的
- □他者との競争を意識する機会が少ない
- □親と仲がよい
- □家の中で遊んできた傾向

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

生活価値観と行動

□努力するより無理をしない生き方･仕事スタイルを志向する傾向

□将来の不透明感や、無理をしない価値観を反映して、以前の大学生と比べてお金を使うことに消極的

□トレンドや他人の持ち物に興味を持つ人が減っている

□行動面ではスポーツ･レジャーなど身体を動かすことや、休日に外出する機会が少ない

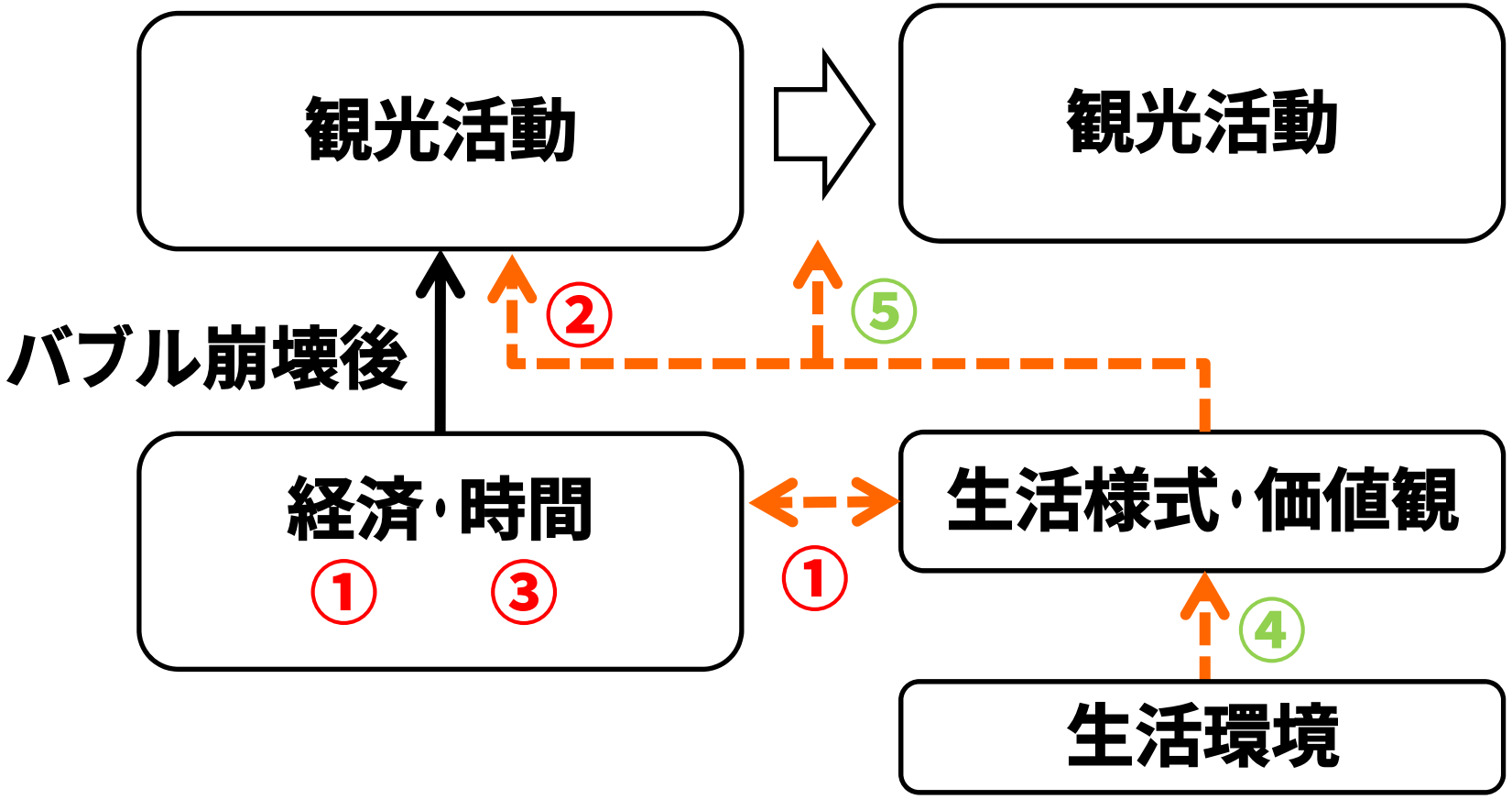
□新しい出会いよりも、昔からの友人や同性の友人との継続的な人間関係を大切にしている傾向

⇨ 経済的理由の増加させている可能性

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

観光活動、経済･時間、価値観

従来の観光モデルの概念（１９８０～１９９０年頃）



□分析の要点

観光をする人としない人で違いがあるのか？

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

経済と観光活動

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

将来の不透明感や、無理をしない価値観を反映して、以前の大学生と比べてお金を使うことに消極的

経済環境

□以前よりも将来の経済見通しについて悲観的な傾向

□社会に対しては、努力しても報われない、弱者切り捨て、夢・生きがいが持てないといった閉塞感

⇒自身の雇用・収入、結婚への不安

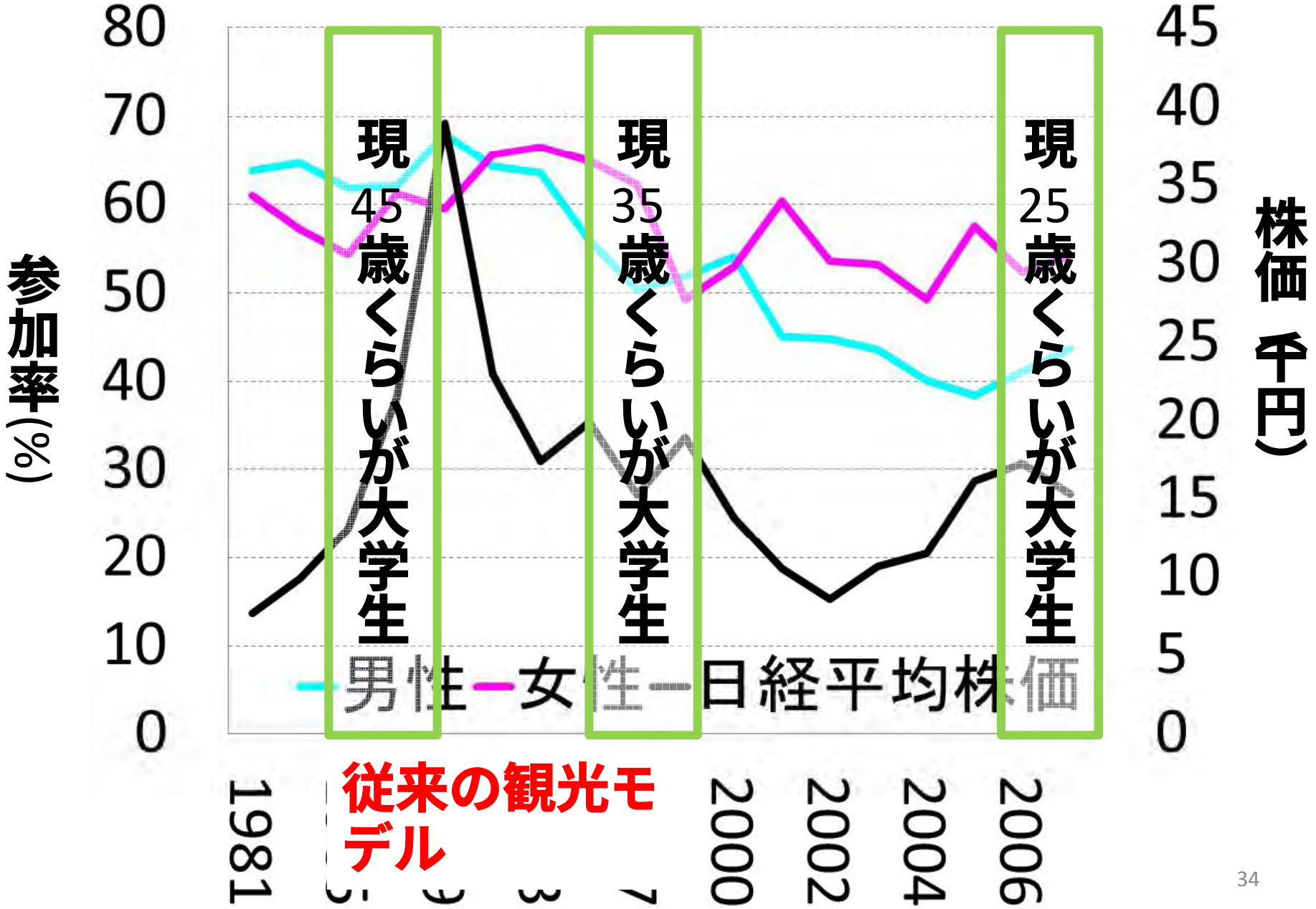
M1・F1**総研レポート**

『若者がモノを買わない要因の考察と消費を促す方法論』

将来への不安 ⇨ **貯蓄性向の増加**

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

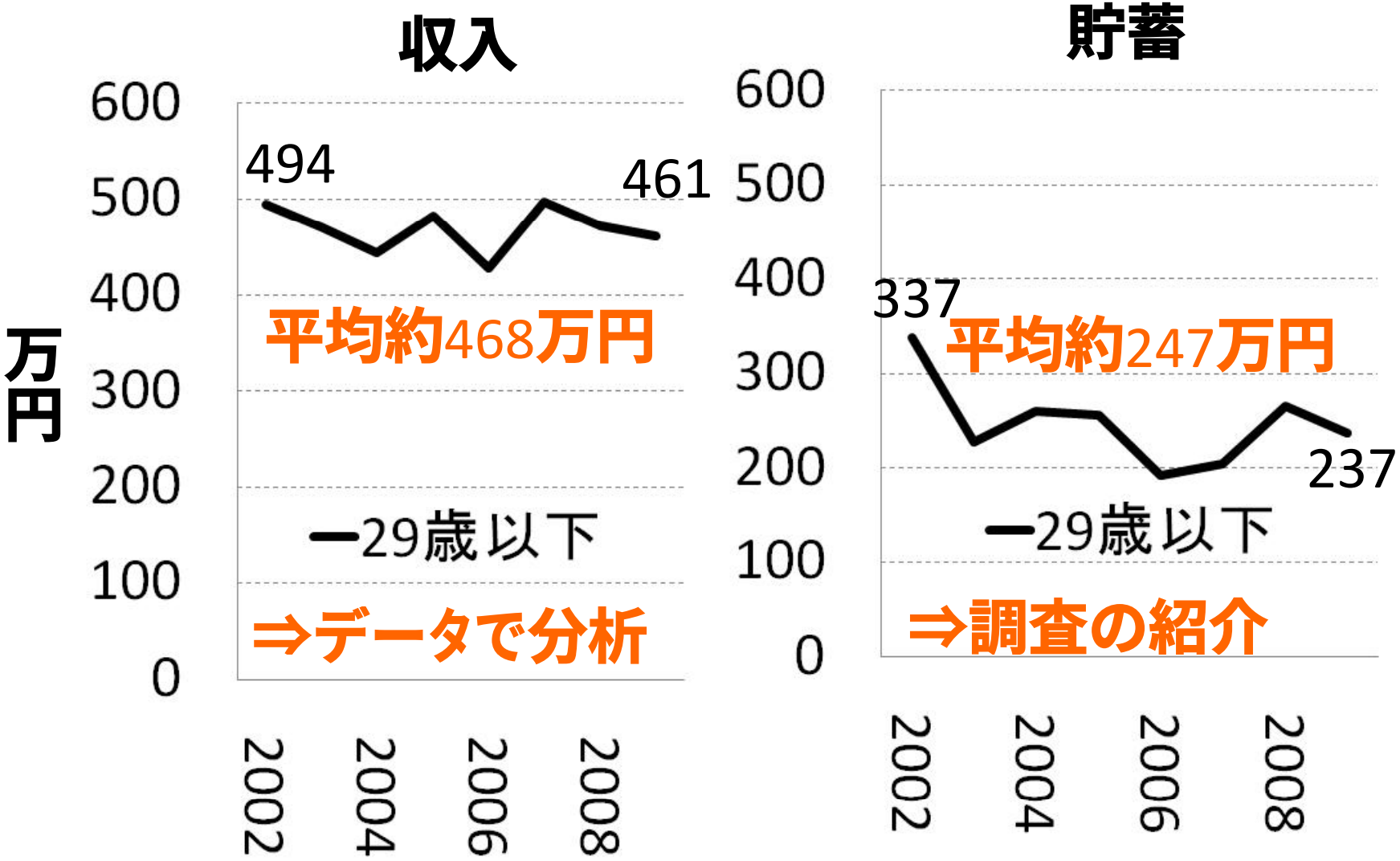
20歳代の観光活動と経済環境の比較



(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

若年層の収入･貯蓄の傾向

家計調査（貯蓄･負債編：二人以上の世帯･勤労者世帯）



(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

観光をする人としない人の差の分析

若者の海外旅行意識調査（日本旅行業協会）

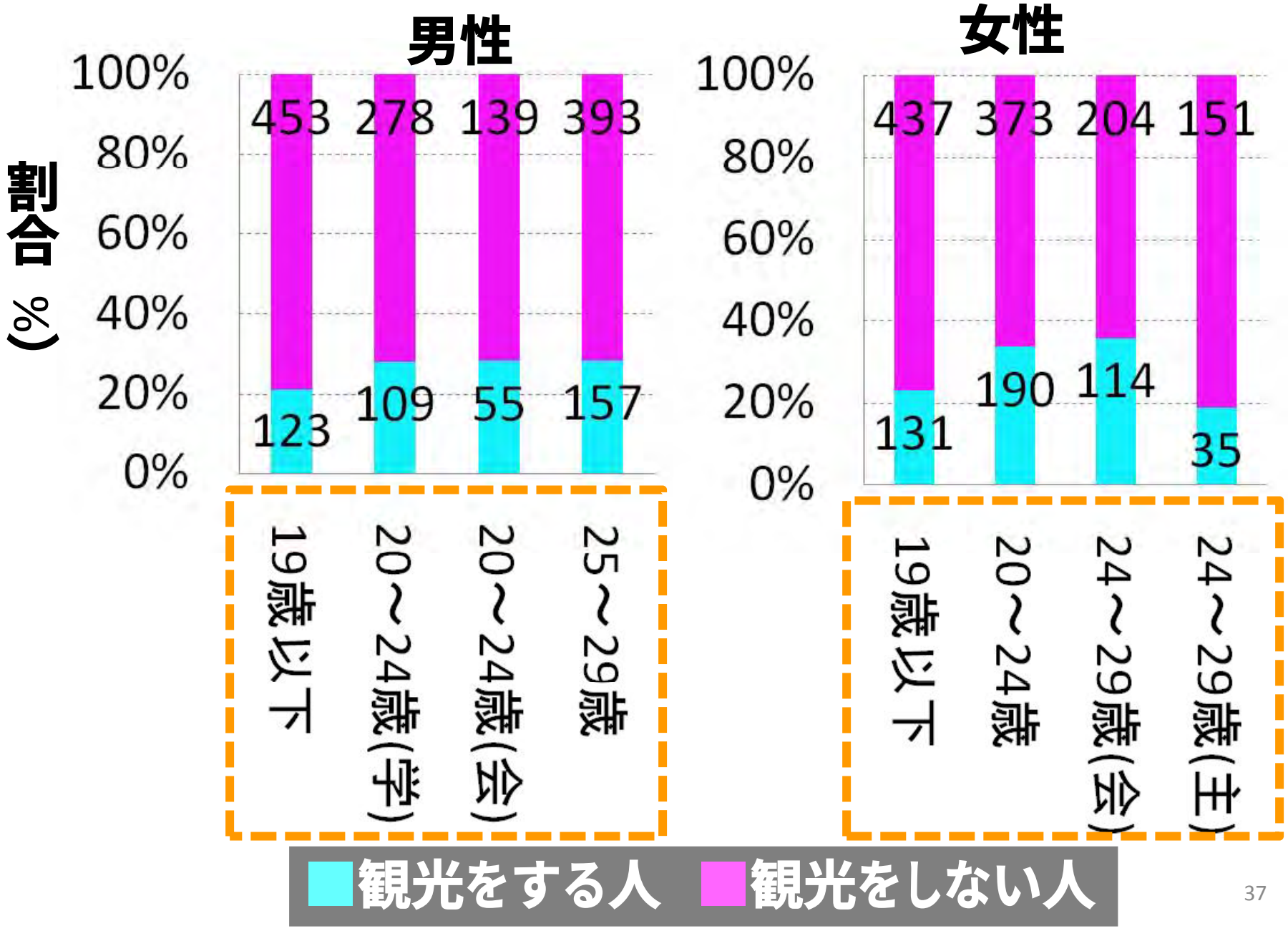
観光をする人／しない人の区別

「様々な状況（仕事、家族、経済的、あなた自身の意志）を考慮して、あなたは現実的に2010年末までにプライベート目的で海外旅行に行くと思いますか」

⇒「行かない／おそらく行かない」と回答したものを（国外）**観光をしない人**とする
＊報告書とは異なる

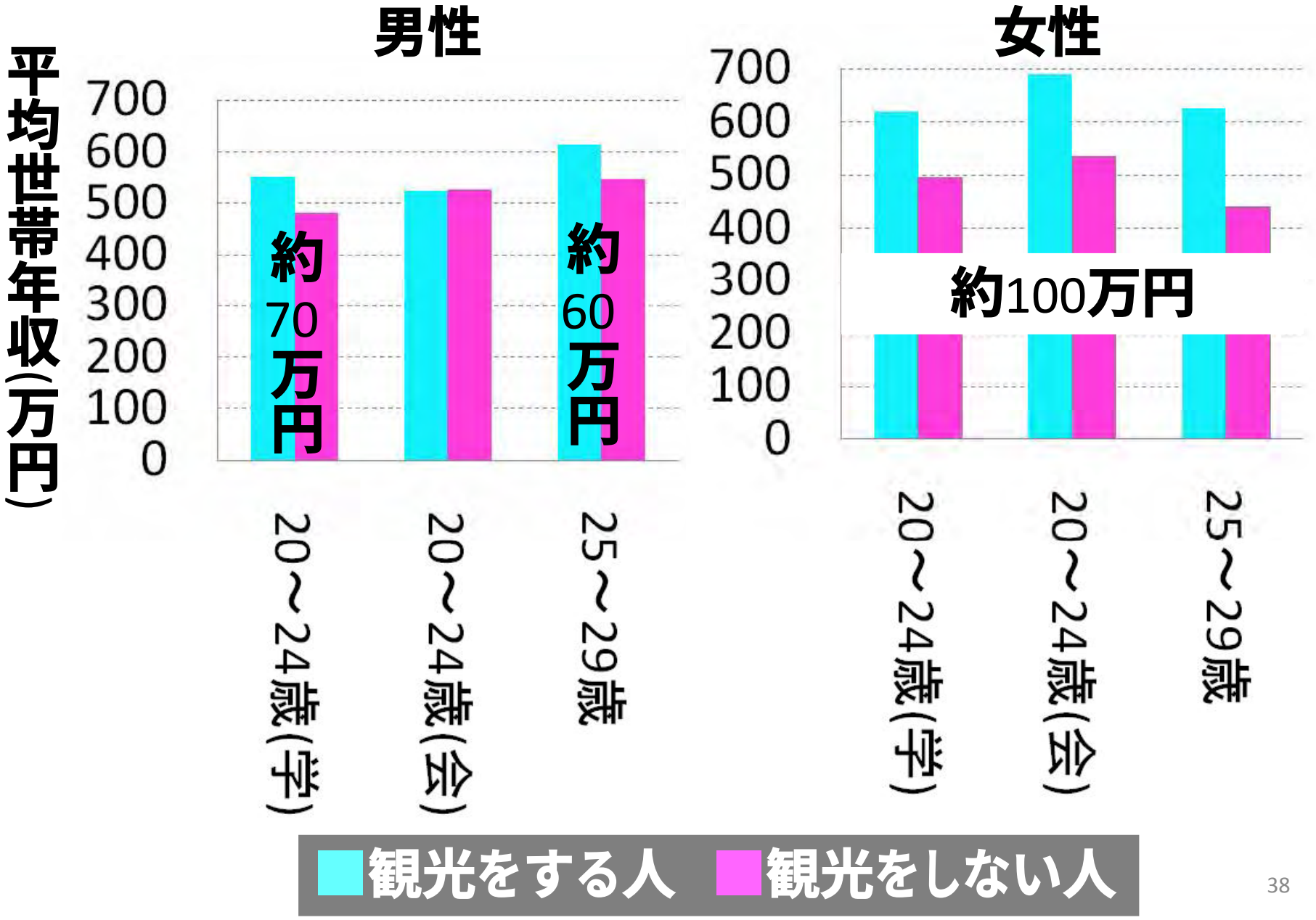
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

観光をする人／しない人の人数と割合



(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

「あなたのご家庭の世帯年収（税込み）をお知らせください」



(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

マイクロ･ミル　『若者の生活意識調査 2008』

1 都3 県(東京都･神奈川県･千葉県･埼玉県)
20 代：312 人

□20 代若者の約8割が毎月貯金をしている

□貯蓄の目的 (複数回答)
いざという時のため：65%、旅行資金：28%
病気や事故の備え：27%、老後の蓄え：23%

経済と観光活動
所得減少の影響：女性、貯蓄性向の影響：可能性は高い

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

生活様式･価値観と観光活動

生活様式･価値観の影響
＝経済･時間的以外で観光活動を行わない理由となるもの。家の事情、立地等は含まない。

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

観光に対する興味･関心

日本自動車工業会(2008)
『興味関心がある製品･サービスランキン』
掲載：25**品目**

年齢 (1位)	現40～50歳 (ファッション)	現20～30歳 (パソコン)	大学生 (パソコン)
国内旅行	2位	4位	5位
海外旅行	9位	7位	13位

□大学生の国内･海外旅行への興味は年代間で低い
□特に海外旅行の低さが顕著

⇨海外旅行を行わない要因：観光をする人／しない人

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

若者の海外旅行意識調査

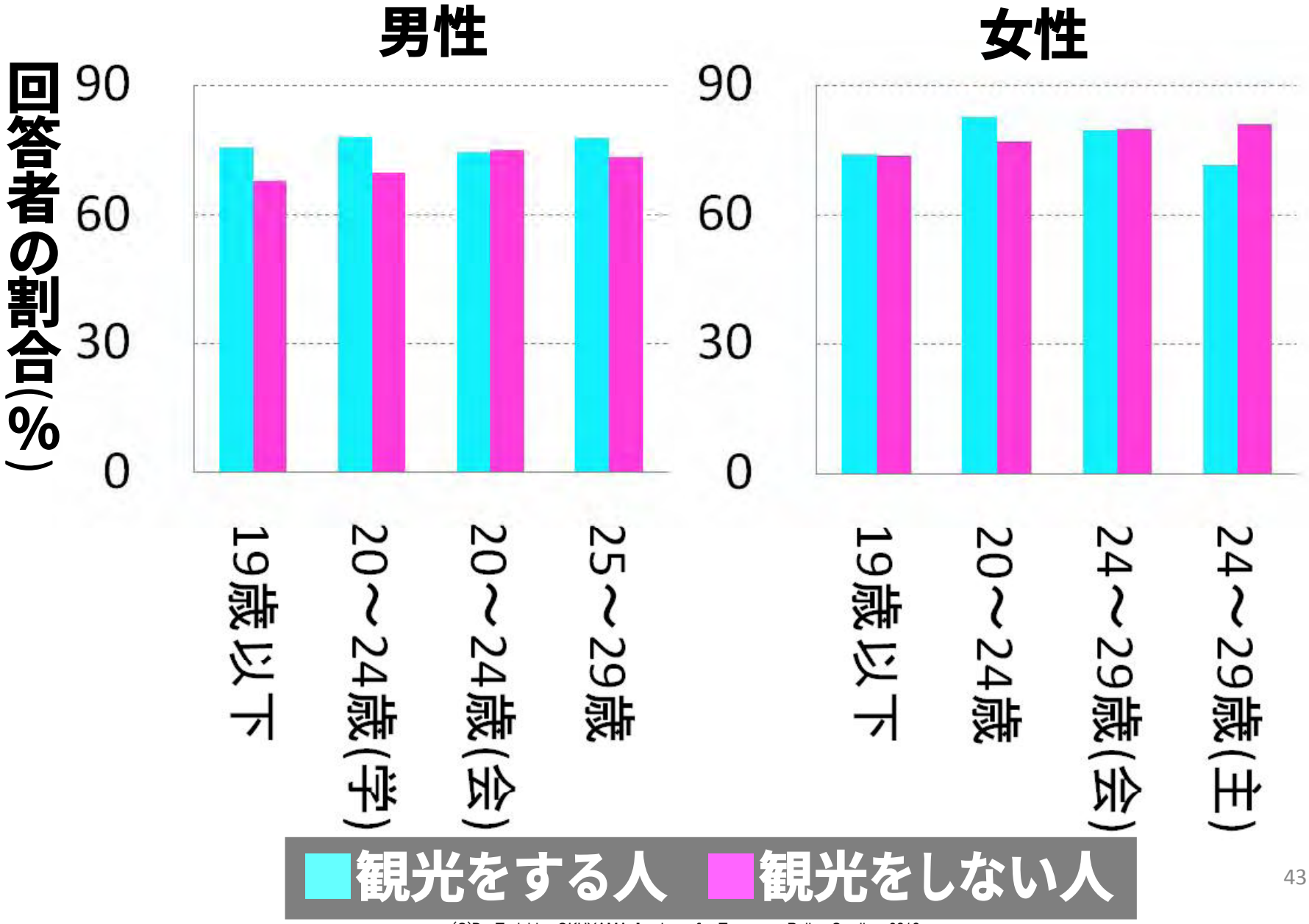
『海外旅行に関する以下の事柄について，あなたはどのように感じますか』

- 海外旅行の旅行代金は高すぎる
- 休暇があったら、海外旅行に行くよりゆっくりしたい
- TVやITなどで海外情報に触れているのでわざわざ旅行に行くまでも無い
- 計画を立てたり、情報収集をすることが面倒くさい
- 海外の環境の変化に対応するのが面倒くさい
- 海外旅行に行くことが、自分にとってどのような価値があるのかわからない
- 海外旅行に行く同行者がなかなか見つからない

➡「あてはまる／ややあてはまる」と回答したものの割合

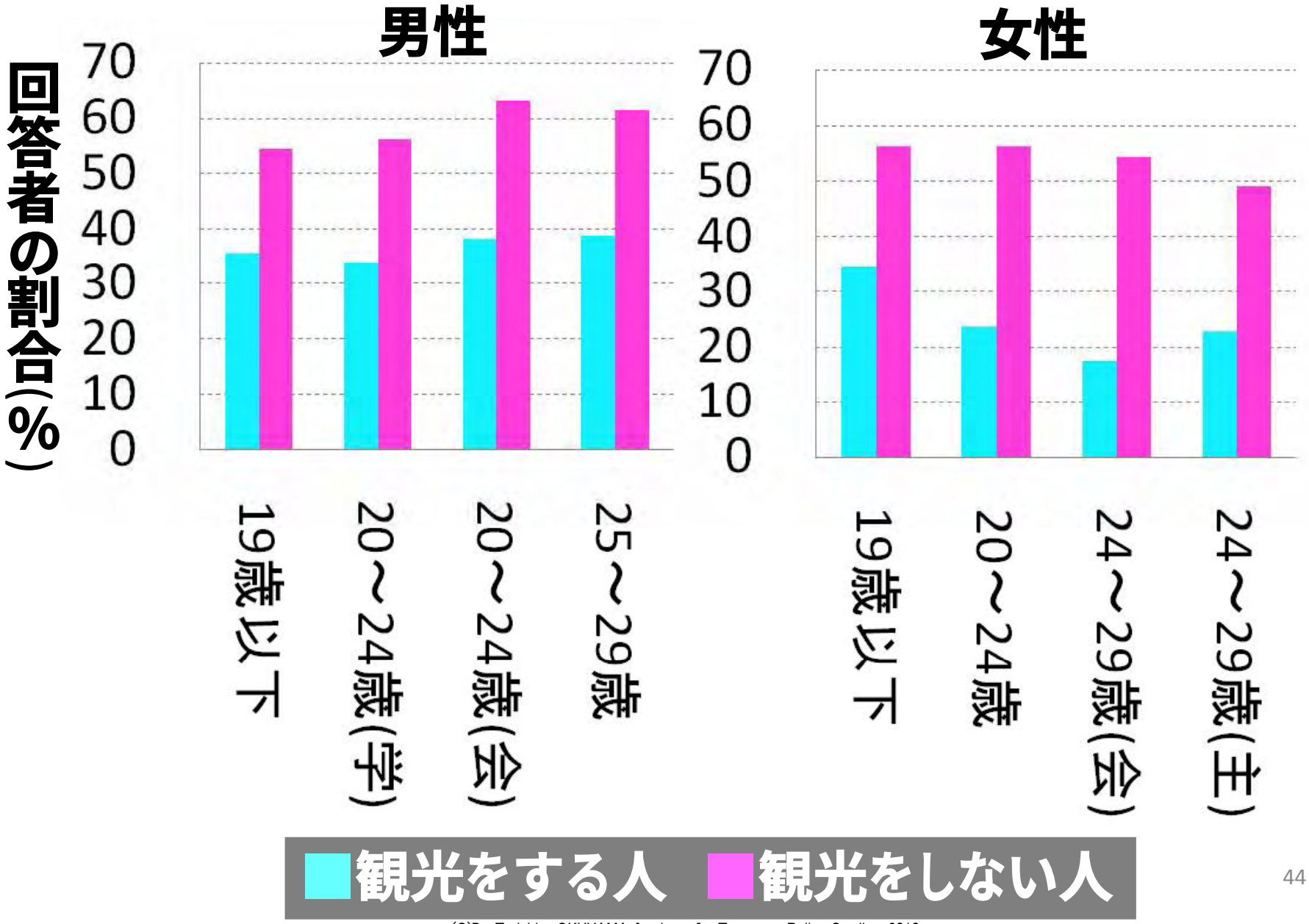
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

海外旅行の旅行代金は高すぎる



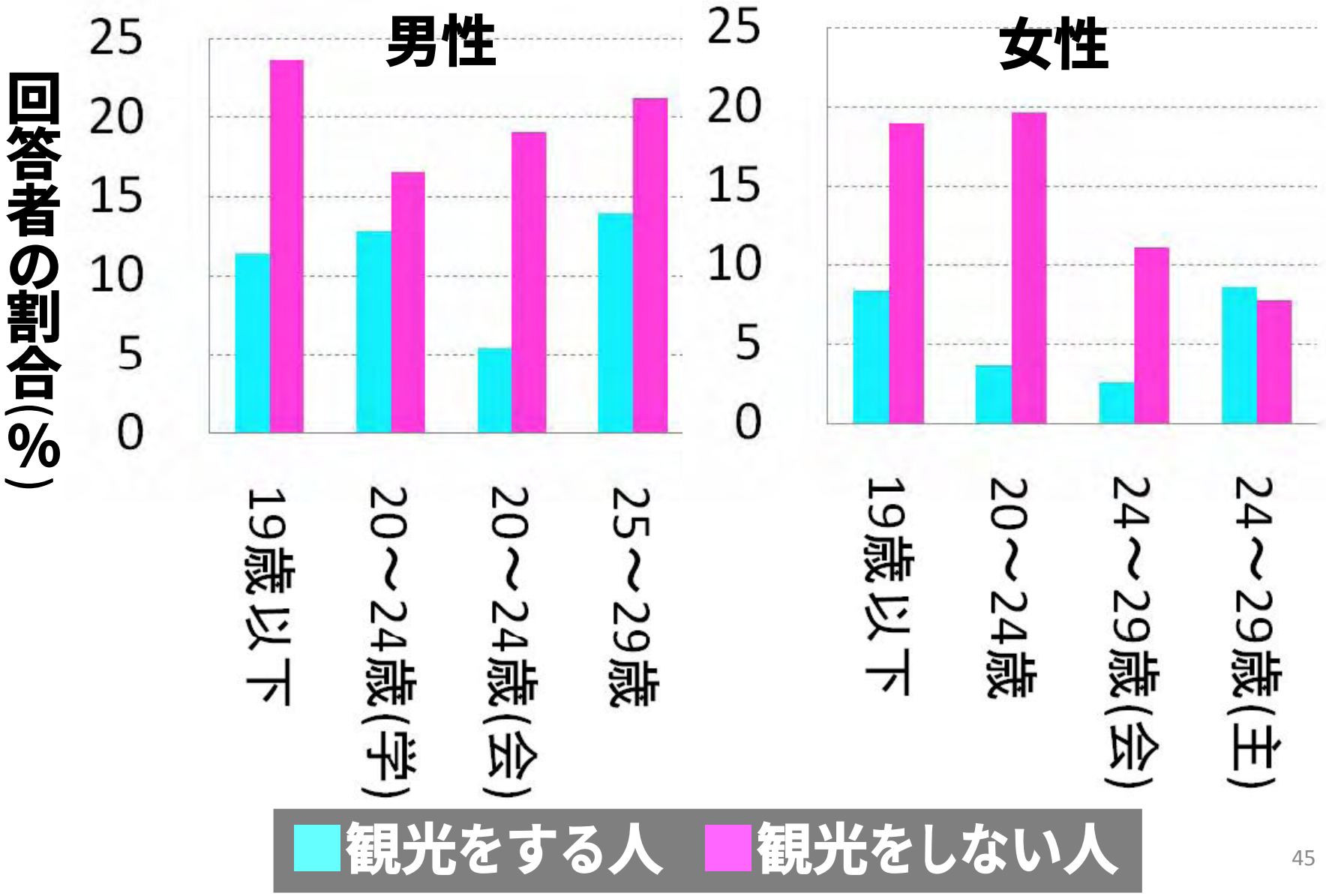
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

休暇があったら、海外旅行に行くよりゆっくりしたい



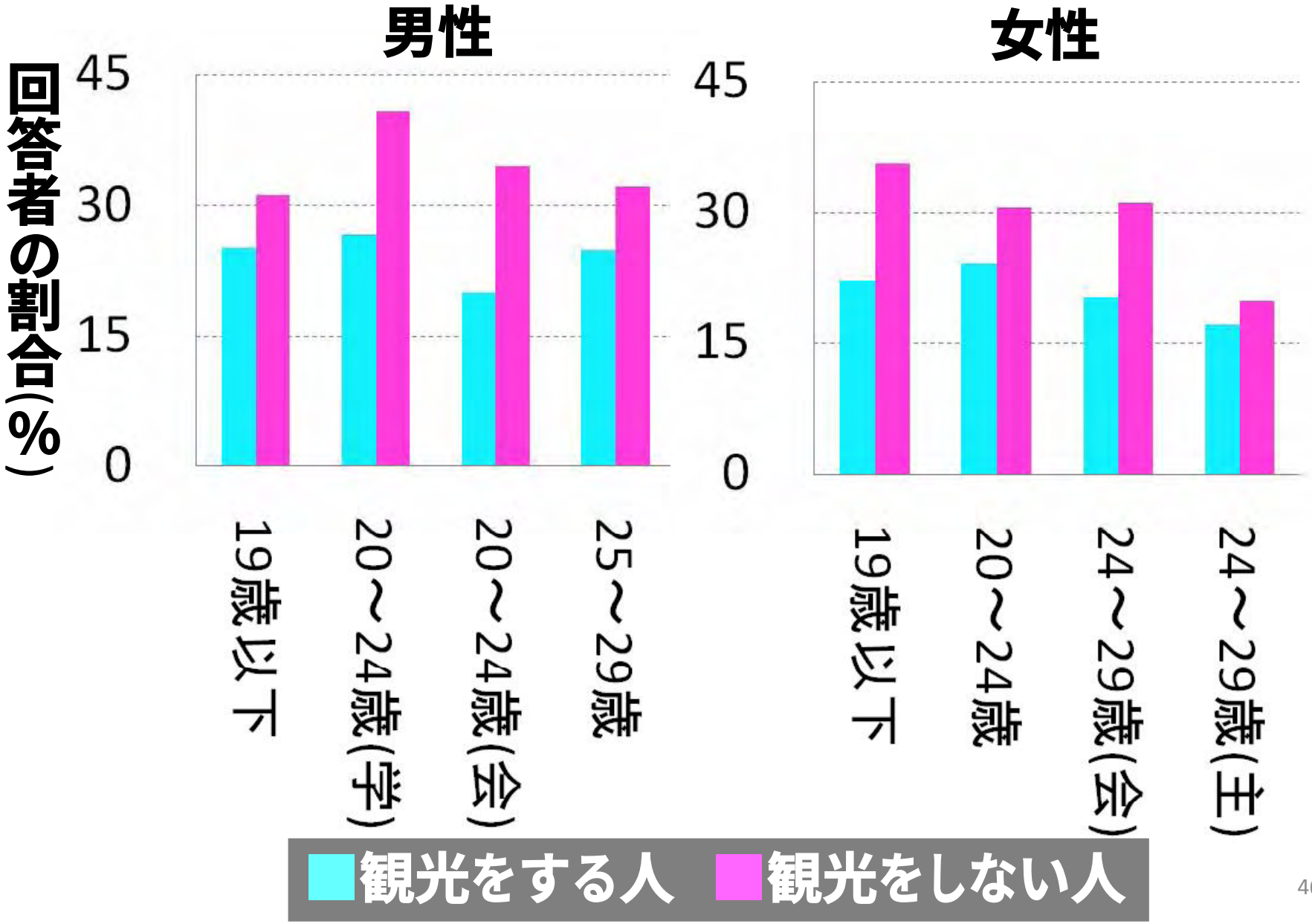
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

テレビやインターネットなどで海外情報に触れているのでわざわざ旅行に行くまでも無い



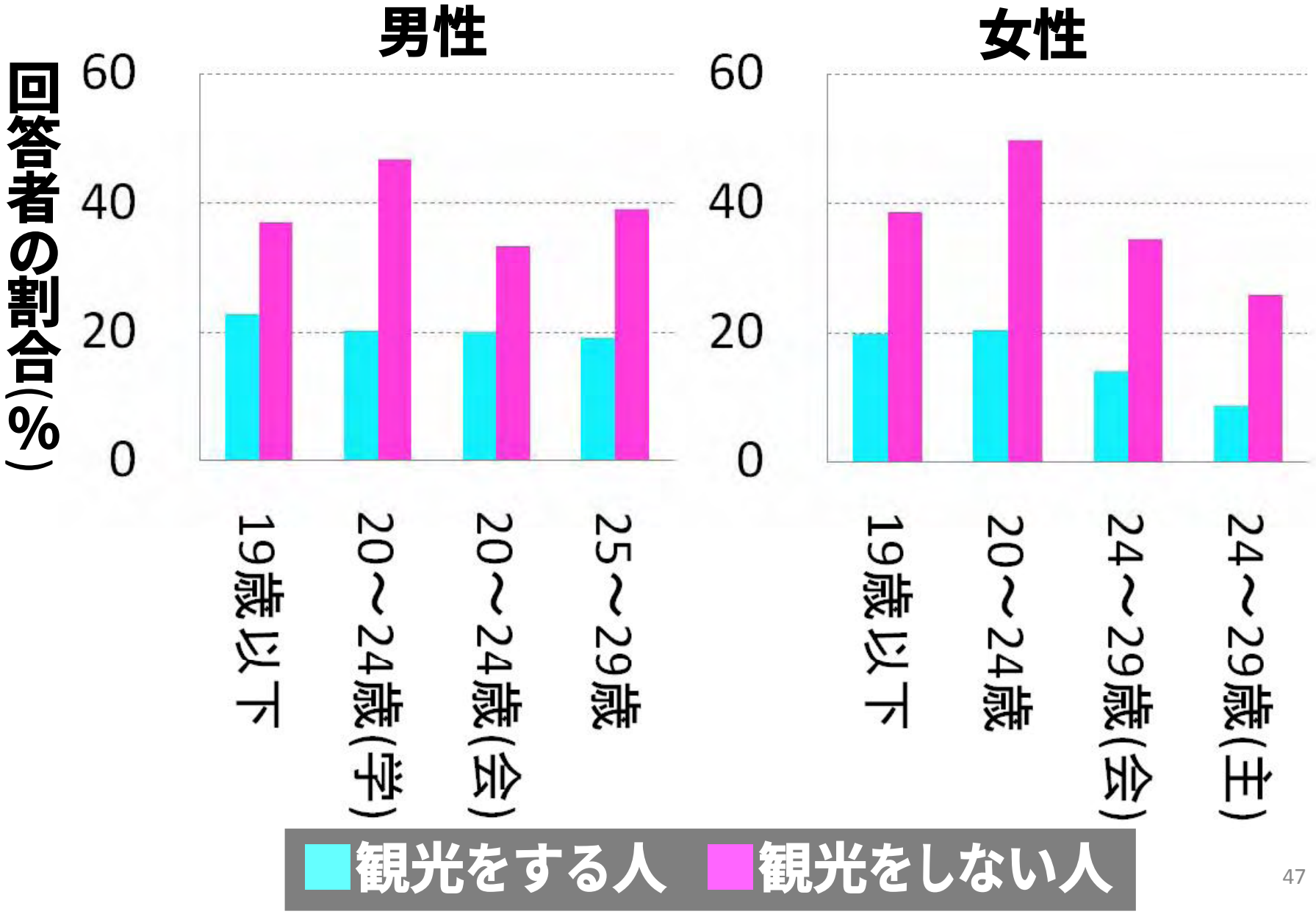
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

事前に計画を立てたり、情報収集をすることが面倒くさい



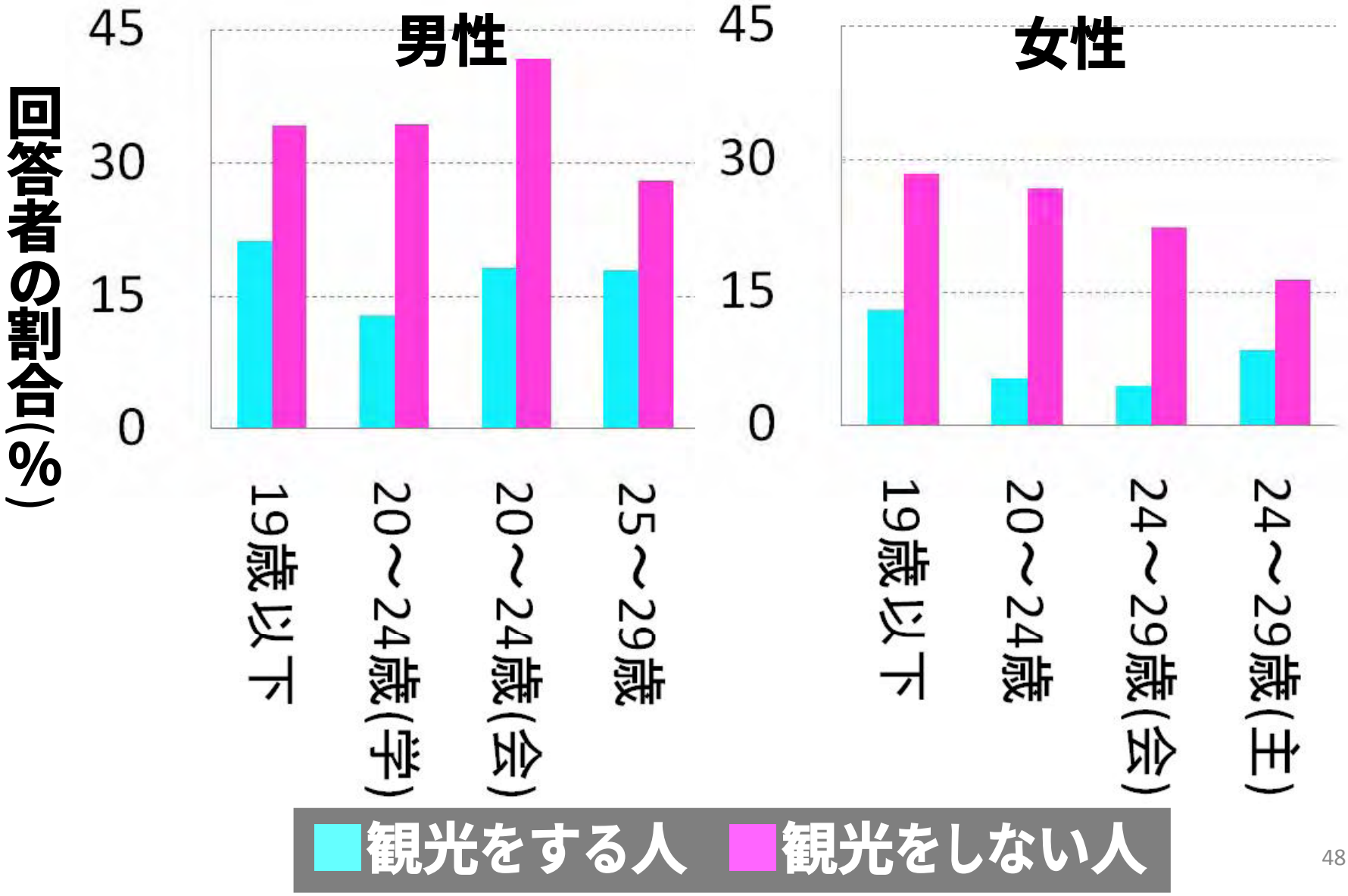
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

海外の環境の変化に対応するのが面倒くさい



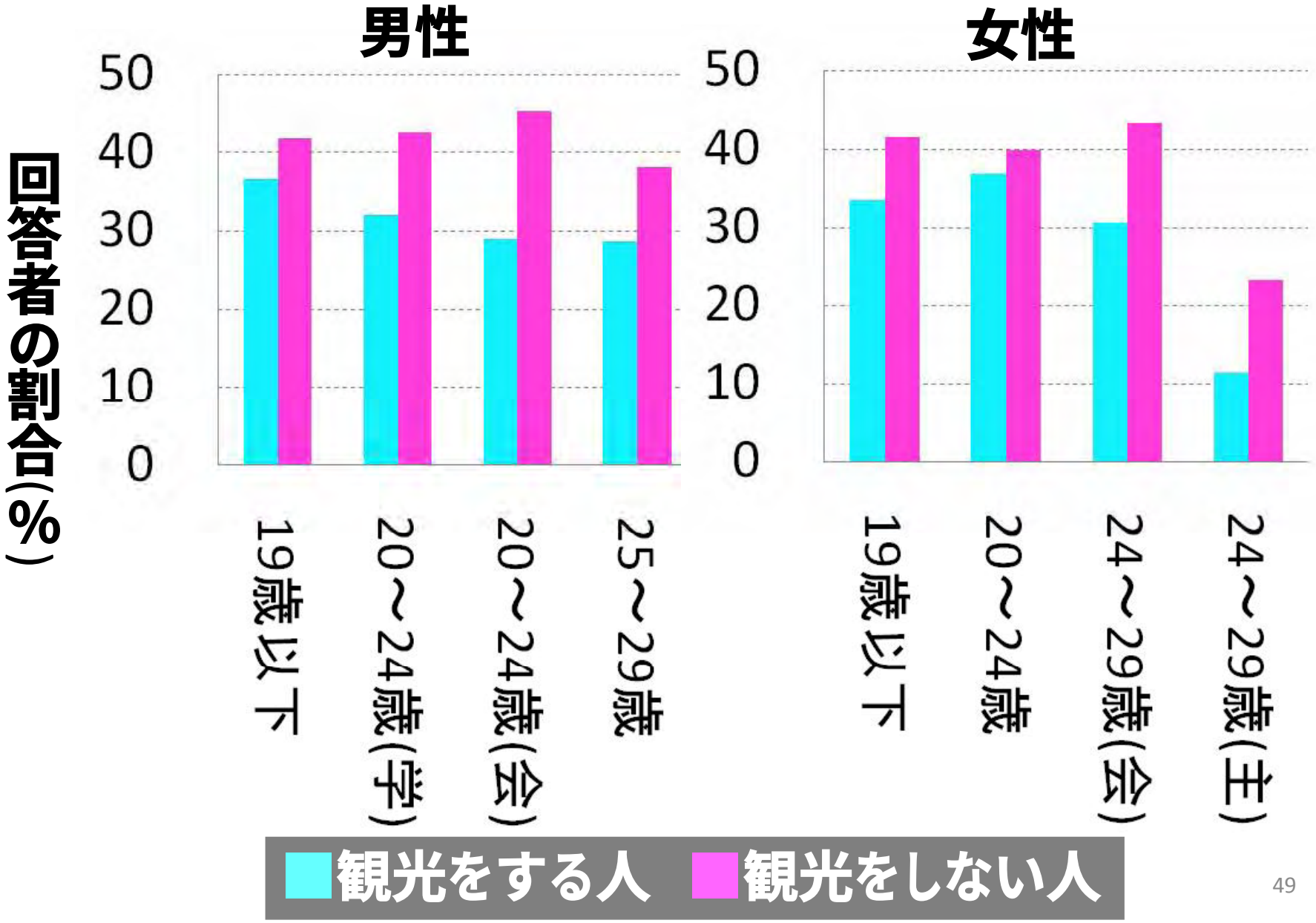
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

海外旅行に行くことが、自分にとってどのような価値があるのかわからない



(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

海外旅行に行く同行者がなかなか見つからない



(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

余暇と観光活動

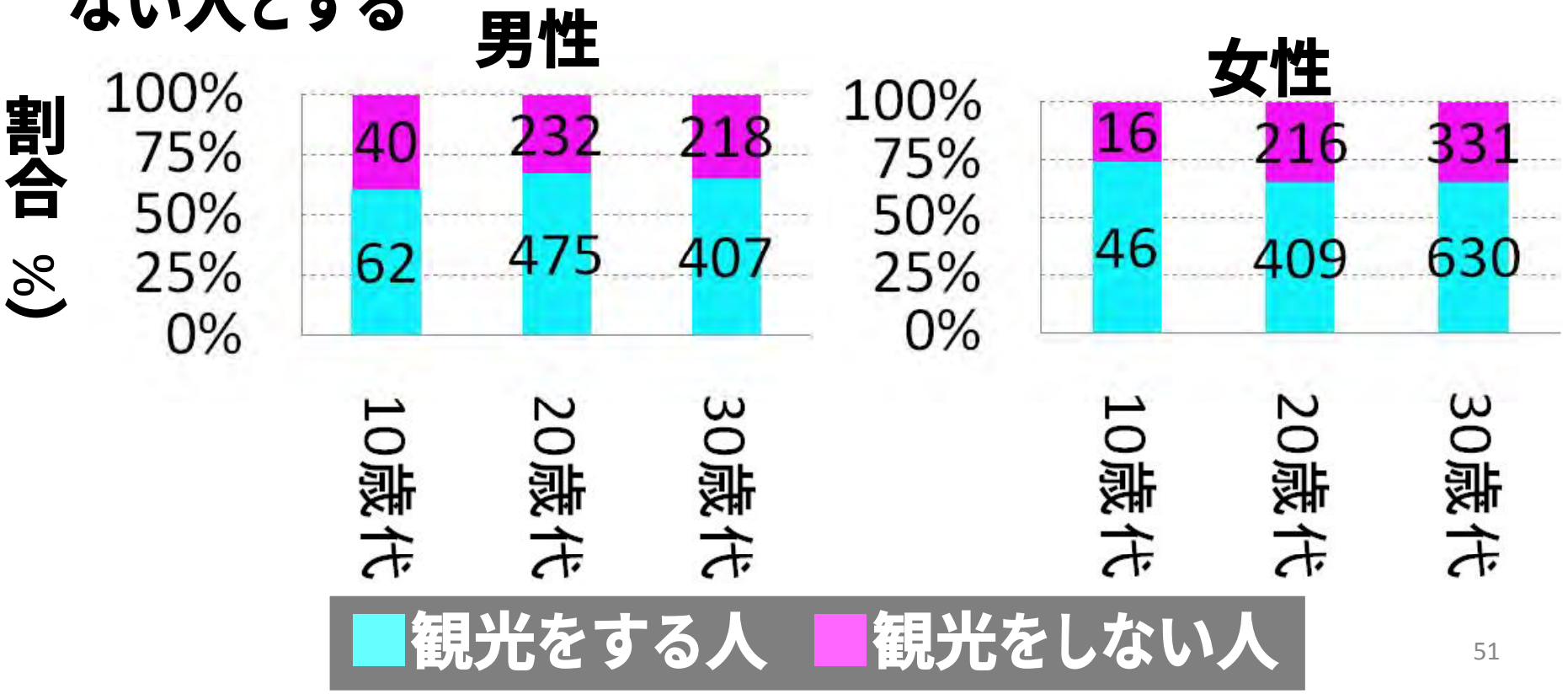
(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

国民の観光旅行の動向と課題に関する分析（観光庁）

観光をする人／しない人の区別

『現在、国内での泊りがけのお出かけ（出張・業務、帰省を除く）には年に何回行っていますか』

⇒「行っていない」と回答したものを（国内）観光をしない人とする

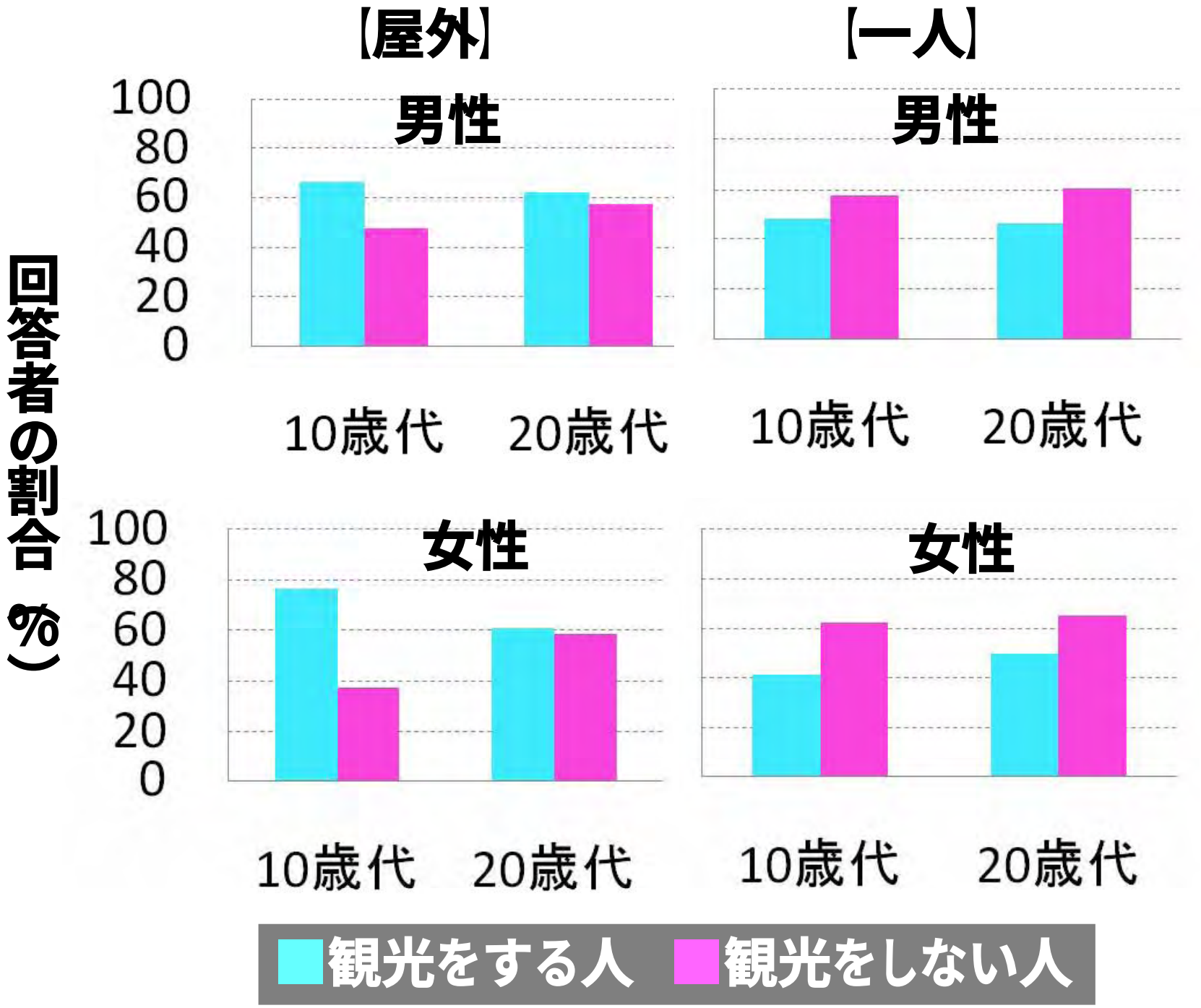


(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

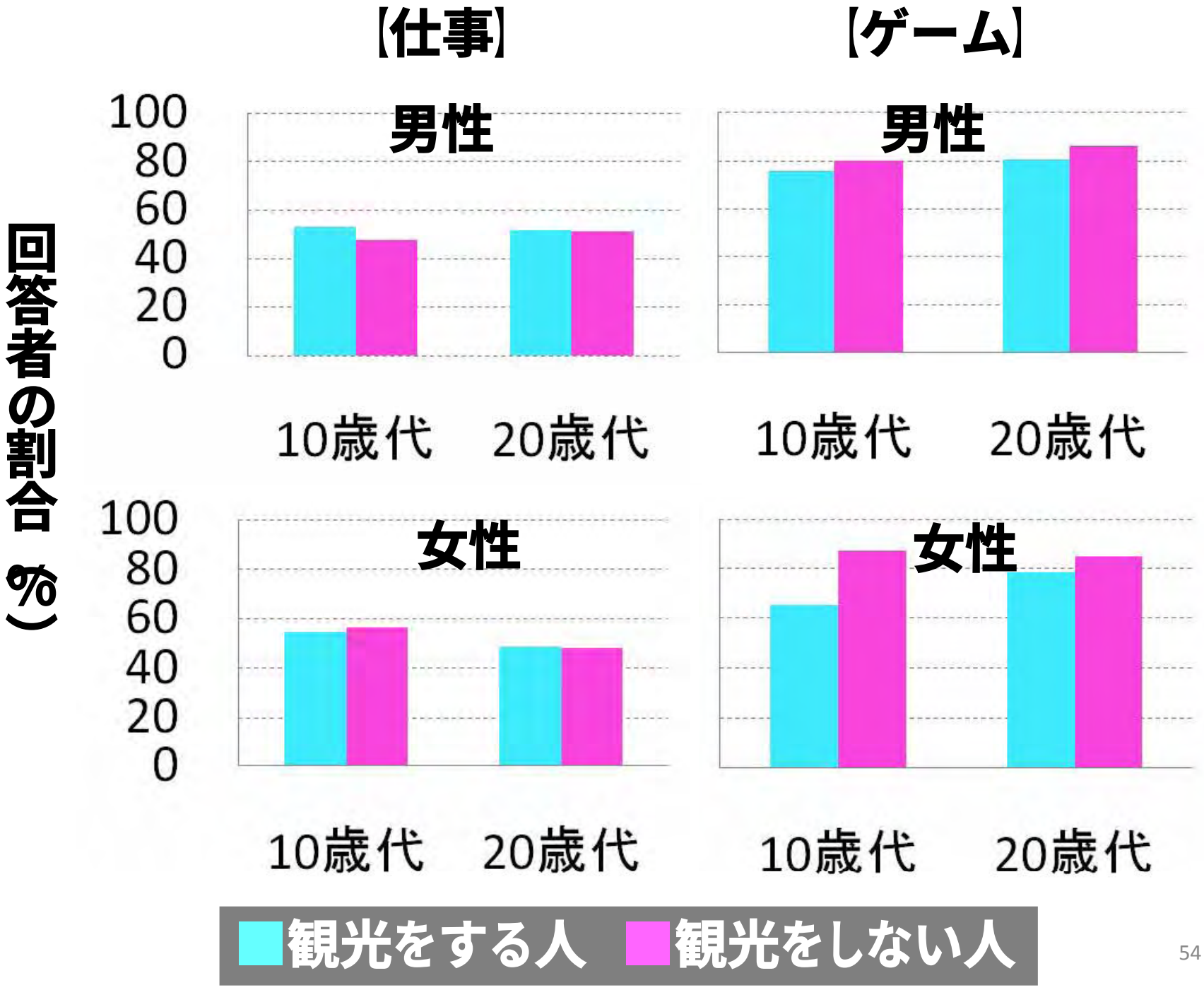
「あなたは休日・休暇をどのように過ごすことが多いですか」（複）

【屋外】家の外で過ごす
【行動】何か計画を立てて行動する
【一人】一人で過ごす
【早起き】平日よりも早く起きる
【仕事】仕事・勉強・家事をする
【ゲーム】ゲーム・インターネットをする
【勉強】資格取得・語学の勉強をする
【ボランティア】地域や社会のための活動（ボランティア、祭り）をする
【部活】部活・サークル活動をする

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010



(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

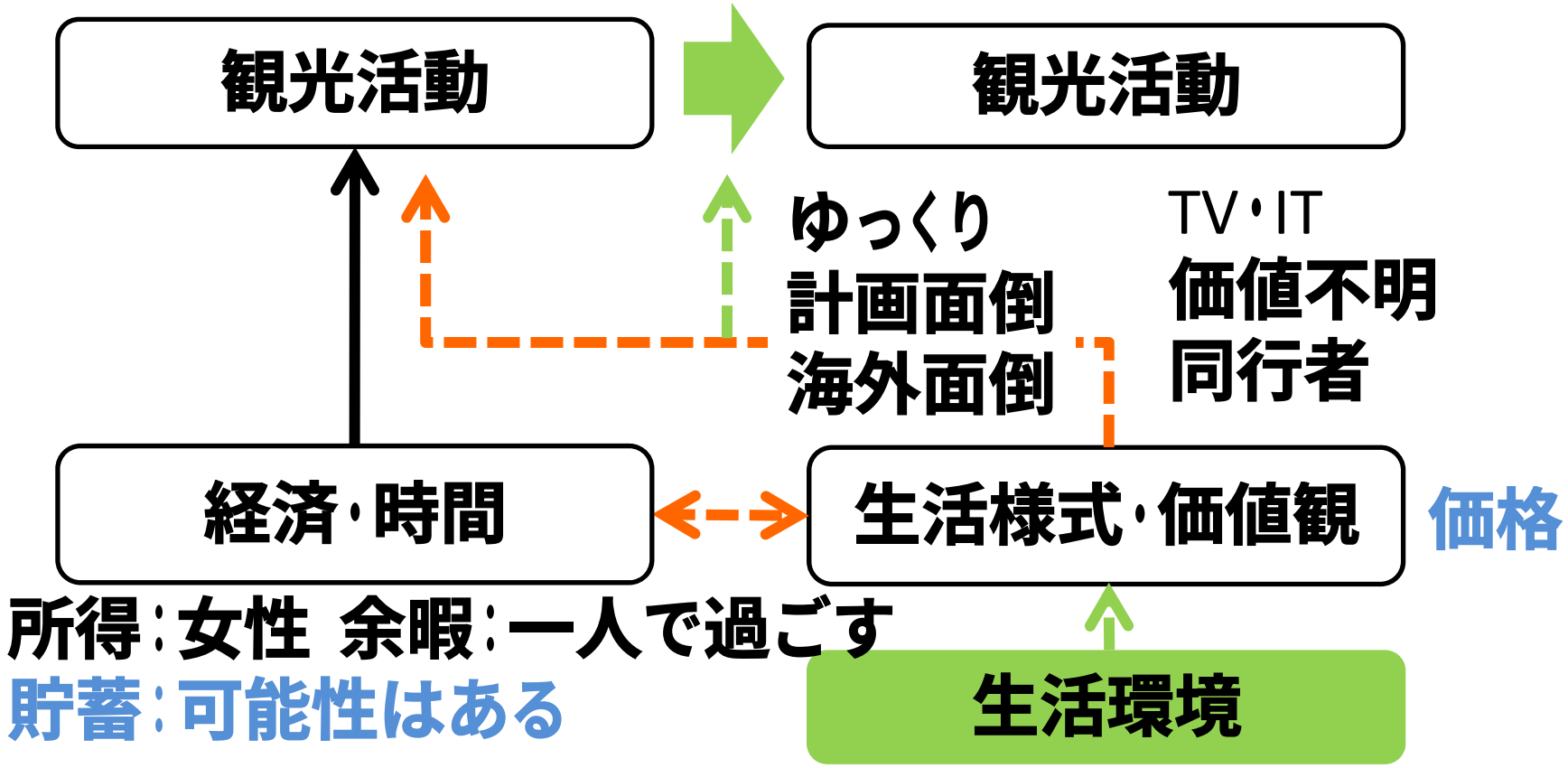


(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

4．本日のまとめ

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010

従来の観光減少の要因：経済・時間



□包括的な関連性の分析

□生活様式・価値観の統計

□要因の影響の程度の分析

(C)Dr. Tadahiro OKUYAMA, Institute for Transport Policy Studies, 2010